



市民団体・NPO

# 特定非営利活動法人 表浜ネットワーク

## 愛知県のウミガメ産卵地保全活動 「ウミガメの為の砂浜づくり」

活動期間 2005年～

活動場所 表浜海岸（豊橋市小島町 等）

web <http://www.omotehama.net>



ポイント

アカウミガメの産卵行動を長期間にわたって熱心に調査し、産卵の障害やその改善対策などを考えています。計画に基づいて効果的な活動を実施し、親子や企業など様々な人々が参加し、大きな規模でアカウミガメ保全活動を実施しています。

### 背景・経緯

表浜海岸は、太平洋の外洋に面する海岸で、伊良湖岬から浜名湖までの約 50 キロの遠州灘海岸を地元の人は、親しみを込めて「表浜海岸」と呼んでいます。この海岸は、海から砂浜、砂丘、丘陵、崖森、農地、空へと緩やかに続く連続性が残る稀有な海岸です。遠州灘海岸は、県絶滅危惧種 IB 類（EN）に指定されるアカウミガメの繁殖地としても重要な海岸であり、その理由は、北太平洋のウミガメは唯一日本で産卵するからです。

2000 年初頭から、全国各地で海岸の開発が進むなどの理由で、アカウミガメの産卵地が失われ始めたことをきっかけに、表浜海岸のアカウミガメ産卵調査を開始しました。さらに気候変動などにより台風もますます強くなり、海岸に設置された波消しブロックによる産卵障害が目立ち始めたため、アカウミガメの産卵行動を記録しました。この活動を始めるに至った背景には、このようなアカウミガメの置かれた厳しい現状があり、この状況を現場から伝えることが最も重要であると考えています。

### 目的

表浜海岸は長大な砂浜を誇り、背後にそびえ立つ海食崖が海岸線と平行し弧を描く姿は全国でもまれに見る景観を有します。しかし、その一方で人間活動が、野生動物の活動を妨げているという現状もあります。表浜海岸の現状を正確に伝えることは非常に重要であり、現状を踏まえて私たちができることとして継続し、未来に伝えることを目的とします。

### 取組内容

アカウミガメのための砂浜再生プロジェクトでは、季節風で飛ばされる砂を留めるため、堆砂垣と呼ぶ長さ 3メートルほどのフェンスを砂浜にいくつか設置して、砂を受け止めることとしています。堆砂垣の材料には、海岸に自生するメダケを使い、活動時の参加者が多ければ堆砂垣を 20 基以上も作る事ができます。これは砂防を目的とする伝統的な手法であり、堆砂垣の効果は大きく、地域の知恵や砂浜の重要性を次世代に伝える方法として有効です。自然の中で、皆が汗を流して協力して堆砂垣を作り



たいさぎき  
堆砂垣づくり

取組キーワード

森林	里山	河川	湖沼	湿地
<b>海岸</b>	公園	農地	<b>野生生物の保護</b>	外来種対策
ふれあい活動の場の整備	生物多様性に配慮した製品	地産地消	<b>環境教育・普及啓発</b>	地域貢献
<b>協働</b>	その他：			

上げるプロセスは貴重であり、子ども、親子、企業、海岸利用者といった様々な立場の人が活動を行ってきました。

当会はこれまで、渥美半島の5か所（豊橋市4か所、田原市1か所）で活動し、大手企業や海岸利用者グループと継続的に活動を行ってきました。豊橋市でも3,000人以上、田原市ではこれまで1,500人以上の人が活動に参加しています。この活動により、赤羽根海岸は礫浜が砂浜に再生しました。小島海岸での活動はエコ・コースト事業地において行っており、様々な団体との協働という形で自然再生が進んでいます。



多くの堆砂垣

北太平洋のアカウミガメは、繁殖地の北限が日本だということはあまり知られていませんが、ここ表浜海岸では毎年数十回の産卵がされています。当会では、アカウミガメを砂浜環境の指標とし調査を行っており、アカウミガメと砂浜の調査・研究をベースに様々な活動を展開しています。

また、アカウミガメ関連事業として、出前授業を含むアカウミガメや漂着物に関する環境講座を地元の各学校や表浜館で、小中学生や一般の方を対象に行っています。

さらに、日本自然保護協会が開催するシンポジウムや全国で行われるウミガメ会議に参加して、全国の最新の情報を入手したり、表浜海岸での取組内容を全国に発信しています。

海岸清掃と海ごみ調査では、海岸にあるごみを細かく分別し、どんなものが漂着するのかを調べます。

表浜海岸は、南海トラフ大地震による津波到達時間が短いとされ、海岸利用者や地元住民の安全を図るため、海岸防災にも取り組み、避難路を作る活動を行っています。

### 今後の展望

高潮などで海岸にもたらされる被害は年々増しており、人工化する海岸とどの様に向き合うかが課題です。県にはアカウミガメに配慮した自然再生事業を行ったという全国的にも珍しい事例があります。県の海岸保全における良い事例として、さらに広げられるようこれからも積極的に活動したいと思います。

ベストプラクティス  
受賞団体コメント



田中美奈子さん

## 特定非営利活動法人 表浜ネットワーク

砂浜には一見何も生息していないと思われがちですが、アカウミガメのような大型の野生動物や微生物という多くの生きものが生活しています。堆砂垣づくり活動にはこれまで多くの方々が参加し、砂浜の劣化が野生動物などに与える影響について伝えてきました。この活動を通して、今後も海の生きものに負荷を与えない県の海岸保全のあり方を皆さんと一緒に考えていきたいと思っています。

市民団体・NPO

企業

教育機関

行政・その他

# 環境ボランティアサークル 亀の子隊

## きれいな海を守る心を広げるためのプロジェクト

活動期間 1998年～

活動場所 渥美半島（田原市）

web <http://www.kamenoko.org>



ポイント

きれいな海を守りたいという子どもたちの思いが活動を動かしていて、子どもたちが活動の発表を行うなど発信力もあります。

この活動への参加人数もとても多く、田原市内を中心に様々な団体と連携して活動しています。

### 背景・経緯

1998年に田原市立亀山小学校の4年生たちが渥美半島にある西の浜に出かけたときに、あまりのごみの多さに驚き、ごみ拾い集めを開始しました。ごみ拾い集めを通じ、自然環境を守っていくことの重要性に小学生たちが気づき、この小学校区の西側に位置する西の浜を見つめ直し、校区の自然に目を向け、ごみのない美しい西の浜にしていく活動を開始しました。この活動は、小学生たちが中心となって自分たちの生活する地域と自然を愛する心を持ち、主体的に活動する趣旨を明確にするため、1999年に「環境ボランティアサークル亀の子隊」を設立し、現在に至っています。

### 目的

渥美半島は3方を海に囲まれています。亀の子隊が活動する西の浜は、三河湾・伊勢湾に面しています。この海からは、多くのごみが西の浜に流れ着きますが、内陸地に生活する多くの人々はその海の現状をあまり理解していません。現在、人々の生活は海から離れ、子どもたちは海で遊ぶことが少なく、その海から多くの恵みを得ていることを実感している子どもは少ないのが現状です。

そこで、クリーンアップ活動と合わせてさまざまな体験的環境学習「海の環境を学ぶ会」を通して、「海のよさ」、「海の大切さ」を感じることにより、永く将来にわたって海を大切にしていくこと、守る心を育て、守りたいという心を育て、広げることを目的としています。

### 取組内容

主な活動として、西の浜クリーンアップ活動を毎月1回のペースで行っています。この活動には、亀の子隊のメンバーだけでなく様々な企業の社員が参加しての特別活動も含まれています。具体的な取組実績や成果として、2019年の西の浜クリーンアップ活動を15回ほど行いました。延べ1,008人の参加者があり、ごみの総重量は3,230キログラムで、ペットボトルの蓋の数は4,425個でした。

また、海の環境を学ぶ会の活動では、①スナメリ観察会、②磯遊びの会、③スノーケリングの会、④タッチングプールの会、



クリーンアップ活動

取組キーワード

森林	里山	河川	湖沼	湿地
<b>海岸</b>	公園	農地	<b>野生生物の保護</b>	外来種対策
ふれあい活動の場の整備	生物多様性に配慮した製品	地産地消	<b>環境教育・普及啓発</b>	地域貢献
<b>協働</b>	その他：			

⑤海水からの塩づくりの会、⑥水族館見学会、⑦干潟観察会、⑧栽培漁業センター見学会などを、各回でテーマを決めて、海の良さや大切さを知る体験的環境学習を行っています。

海の環境を学ぶ会は、2019年には8回実施し、延べ300人の参加者がありました。エコツアー活動では、環境学習だけではなく、渥美半島そのものを学び、渥美産の魚介類などの食材を食べる活動を通じ、食などの様々な視点から環境保護を見つめなおしています。エコツアーは、2019年には2回実施し、参加者11人でした。



海の環境を学ぶ会

なごや環境大学共育講座への参加者も募り、2019年には2回実施し、33人の参加者がありました。

ごみが排出される上流の人々に向けて、様々な機会を捉え積極的に情報発信をしています。

2019年7月の渥美まつりでは東日本大震災被災地の東北支援のためのパネル展示、10月の田原市民まつりでは南三陸町物産展、三河湾大感謝祭ではパネル展示・ワークショップを行いました。また、11月の「エコアクション in あいち」、2020年1月の「あいち・なごや生物多様性 EXPO」では、パネル展示・ワークショップを行いました。2月の東三河ボランティア集会では、「きれいな海を守る心を広げたい」と活動発表をしました。

この会の活動は、インフラメンテナンス大賞の優秀賞としても表彰を受けたこともあります。さらに、チャリティ活動として、南三陸町社会福祉協議会へ渥美半島産の野菜を送っています。

### 今後の展望

生物多様性を基本に、「SDGs14 海の豊かさを守る」という目標に視点を置き、『きれいな海を守る心を広げるためのプロジェクト』をより実りのあるものにするために、多くの人と連携して活動を継続していきます。

ベストプラクティス  
受賞団体コメント



鈴木吉春さん

## 環境ボランティアサークル 亀の子隊

「きれいな海を守る心を広げる」ことを目的に、海の環境を守るための自然美化活動としての「西の浜クリーンアップ活動」、海のよさ・大切さを学ぶ体験型環境学習「海の環境を学ぶ会」、気づきを伝えるための「想いを広げる広報活動」という活動をしています。今後、あいち・なごや生物多様性ベストプラクティスとして、より多くの人に想いが広がることを期待します。

市民団体・NPO

企業

教育機関

行政・その他

# 島を美しくつくる会

## もば 藻場の再生（アマモの移植活動）

活動期間 2001年～

活動場所 西尾市一色町佐久島

web <https://sakushima.com/island/beautifulisland>



### ポイント

佐久島の中学生が中心となり、来島者も受け入れて活動を行っています。

漁業など他の産業とも協働した島を守る活動であり、自然環境だけでなく地域経済にも貢献できています。

佐久島在住の全島民が会に参加しており、強い連携力があります。

## 背景・経緯

佐久島は、三河湾に三島ある有人島（佐久島、日間賀島、篠島）の中で面積が最大の島です。風光明媚な三河湾の島しょ景観の中心として、三河湾国定公園に指定されています。

佐久島は、古くから漁業を生活の糧として暮らしてきた場所です。自然環境の変動や生物多様性の劣化の影響で、近年は水産資源が減少し、島の生活にも影響を与えています。そのような状況の中で、一人の中学生が、「魚の繁殖場所であるアマモがずいぶん少なくなっている。」という漁師の言葉から、「魚やアサリがいっぱい捕れるように、佐久島の海を豊かにしたい」という想いを強くもちました。これがきっかけとなり、2000年より中学校の総合学習で「アマモを増やしてアマモ場を再生する活動」が始まりました。この活動に賛同した島の漁師たちが協力を申し出て、2004年から「島を美しくつくる会」も応援を始め、島を挙げた活動となりました。当会の会員は、2020年時点で佐久島在住の全島民223人になります。

## 目的

「島を美しくつくる会」は、佐久島の資源（自然、風土、歴史、産業など）を発掘して磨きをかけ、島の活性化を進めていくために設立された、島民による自主活動組織です。島の子どもたちや島外ボランティアとも協働しながら活動を推進しています。

当会では、「アートと地域の協働」（アートによる島おこし）をテーマに、「ひと里」、「美食」、「漁師」、「いにしえ」の4つの分科会を核に活動をしており、漁師分科会において、藻場再生（アマモの移植）を行っています。

多くの生きものにとっての餌場であり、育成場でもあるアマモ場の群落を増やし、佐久島周辺の自然環境を取り戻し、生態系あふれる豊かな海を取り戻すことが目的です。教育機関や観光、漁業など、多様な主体が連携することで、自然環境だけでなく産業や観光面も守り続けられるようにします。

## 取組内容

アマモは、水深1mの沿岸砂泥地に自生する海藻の一種で、魚類の産卵場所や幼稚魚の生息場所になるとともに、水質浄化の面でも重要な役割を果たしています。島のアマモ場を増やす主な取組内容として、次の活動を行っています。

アマモの移植ボランティア活動では、2008年から毎年6月頃に島に残された天然のアマモ場から、浅瀬

取組キーワード

森林	<b>里山</b>	河川	湖沼	湿地
<b>海岸</b>	公園	農地	<b>野生生物の保護</b>	外来種対策
ふれあい活動の場の整備	生物多様性に配慮した製品	地産地消	<b>環境教育・普及啓発</b>	地域貢献
協働	その他：			

に株を移植して、アマモ場の拡大を図る活動を行っています。アマモは、北半球の温帯から亜寒帯にかけての水深約1メートルの沿岸砂泥地に自生する海草の一種です。日本の各地に分布し、雌雄同株で多年生の顕花植物であり、孢子で増える藻類ではなく、海中に生える種子植物です。アマモ場は潮流を和らげ、外敵からの隠れ場ともなるため、魚類や頭足類の産卵場所、又は幼稚魚や小型動物の生息場所となります。また、富栄養化のもととなる窒素やリンを吸収し、水質浄化の面でも重要な役割を果たしています。活動には島民だけではなく、島外のボランティアも参加し、参加者数200名余りでの活動を行っています。この活動において、島の中学生がアマモについての活動発表から作業説明までを行っています。

植栽マットの活用による実生移植活動では、島の中学生が中心となって行っています。植栽マットとは、鉄の枠に麻のマットを挟んだもので、麻の上に泥と混ぜたアマモの種子を敷き海底に沈め、アマモの増殖を図るものです。また、環境学習の推進活動では、磯の清掃活動、里山の間伐作業、農作物の栽培などの活動を島外からの観光客に行ってもらい、都会の生活圏と海までのつながりを考えてもらう体験活動も行っています。



藻場から株を採取



地元中学生の活動発表

## 今後の展望

今後も多様な主体が連携し、漁場、環境の改善及び保全、地域社会と経済の活性化に成果を上げていきます。島外からの体験希望者や観光客にもさらにアピールできるようにします。

ベストプラクティス  
受賞団体コメント



鈴木喜代司さん

## 島を美しくつくる会

豊かな海の恵みを受け、島のほとんどの世帯が漁業に携わる220名余りの人々が暮らす佐久島は、人口減少が急速に進んだことから、アートを使って島を元気にしてきました。おかげ様で若い世代の認知度も上がり、島を美しくつくる会の活動である藻場の再生活動、里山活動なども島外の若い力に支えられて現在まで続いています。これからも本来の自然の姿に近づけるよう、啓発と活動を続けていきます。

市民団体・NPO

企業

教育機関

行政・その他

# ネイチャークラブ東海

## 絶滅危惧種「ギフチョウ」の 保全保護活動（環境学習プログラムとして）

活動期間 2011年～

活動場所 愛・地球博記念公園内（長久手市）

web -



ポイント

環境や自然保護を行う人材を育成することを目的に、知識優先の環境学習ではなく、行動がともなう活動を行っています。設立初期に参加した方が、活動をサポートする側として活躍するなど、世代交代も着実にできており、長期間にわたって活動を行っています。

### 背景・経緯

当会は、2010年に愛知県尾張建設事務所の「愛・地球博記念公園森林再生プロジェクト」を受託し、3年間、公園内で森づくり作業の傍ら森づくりボランティアの人材育成を行いました。その後、ここで育成したボランティアが活動主体となり、当地でギフチョウの保護や湿地の再生活動などを行ってきました。

また、活動に際して、幼児期における自然体験を重視して、このフィールドを活用し、幼児から小学生の親子を主役とした体験型自然環境教育を実施しています。

### 目的

生態系保全や自然保護活動を通じて、その知識や認識を持ってもらうことを目的としています。目的達成のために、次世代の自然環境を守る人材の育成と絶滅危惧種の保護活動を行っています。知識優先の環境学習では「行動」が伴わないので、本当の意味で自然を守ることができないと言えます。自然保護活動を通じて、環境のために行動できる人材を育成することを目指しています。

### 取組内容

現在、当会の活動内容は、ギフチョウの保護、シラタマ湿地の再生、ハルゼミの保全活動などを行っています。参加者は主に小学生親子と一般県民の方々を対象としています。

ギフチョウの保全活動では、2011年の最初の調査で産卵数が35個程度だったのが、2019年の調査では約10倍以上の360個ほどに増えていました。産卵数だけでなく、ギフチョウの個体数も確実に増えました。産卵数の調査活動は、主に3月から5月にかけて行いました。

主な作業として、生い茂った雑木林の間伐から、ササの刈り取り、カンアオイの移植と増殖活動、吸蜜のためのツツジの増殖作業などを継続的に行っています。吸蜜のためのツツジの増殖作業には、増殖のために周囲の日当たりを確保する準備活動も行っています。また、生息環境の確認のために周辺のギフチョウの繁殖地の観察や、ギフチョウの飛来のための低木下草の刈り取り作業も行っています。ギフチョウだけでなく、野鳥のための巣箱の設置や実のなる樹木の植樹活動など、生物多様性保全のための環境整備活動も行っています。



現地の状況確認

取組キーワード

森林	里山	河川	湖沼	湿地
海岸	公園	農地	野生生物の保護	外来種対策
ふれあい活動の場の整備	生物多様性に配慮した製品	地産地消	環境教育・普及啓発	地域貢献
協働	その他：			

活動場所の一つは、北東斜面で尾根から谷まで約 150 mほどある場所です。頂上の尾根には平らな場所があり、日当たりが良いコバノミツバツツジの群落があり、ギフチョウにとっては、吸蜜の格好の場所になります。薄暗い林の中に、蝶が往来できる空間を作るために、子どもたちは間伐に取り組みました。最初は木を伐ることに抵抗があった子どもたちも、里山や雑木林の仕組みを理解するにつれて、抵抗感が無くなっていきました。



伐採作業

シラタマ湿地の再生活動では、愛・地球博記念公園内にあるシラタマホシクサの生育地「シラタマの湿地」が上流からの土砂の流入と、イノシシの掘り返しによる被害で危機に瀕しているため、他の場所にシラタマ湿地の復元を行いました。具体的な活動として、水路の点検と水の確保の定期整備などを行い、他の場所においても発芽することを確認し、元の場所から移しかえていき、別の場所でも生育できることを確認できました。50㎡ほどのシラタマ湿地を再現することができ、新しい場所のシラタマ湿地にハッチョウトンボも飛来していることを確認できました。

松林が繁殖場所であるハルゼミは、松林の減少により危機に瀕しています。ハルゼミを保全するために松の植林ではなく、松の純木育成による自然再生作業を行っています。2011年から5年近く経て、当初から4倍ほどの松へと生長しました。

## 今後の展望

単に生物を守る活動ではなく、環境や自然を守る人を育てる活動を目指しています。当会は活動を長く継続して行い、活動初期の参加者たちはすでに社会人として、現在はこの活動をサポートしてくれています。今後も引き続き、人材育成を行っていきます。

ベストプラクティス  
受賞団体コメント



篠田陽作さん

## ネイチャークラブ東海

私たちの環境学習の基本は3～9才の児童に自然体験型の環境学習を実施することで、環境や自然に対する「感性」を養うことが目的です。環境や自然を大切にすると言っても、自然や環境を見た時に「感じる感性や心」が無ければ守る行動はできません。あれはダメこれもダメと言われた事のみをやっていても環境は守れません。

市民団体・NPO

企業

教育機関

行政・その他

# 特定非営利活動法人 藤前干潟を守る会

## 藤前干潟の保全活動

活動期間 1984年～

活動場所 名古屋市

web <http://fujimae.org>



ポイント

20年以上継続して干潟の保全活動を続けており、埋立計画の中止から干潟の保全という政策転換を促しました。また、次世代のための人材育成にも力を入れています。

### 背景・経緯

1984年、名古屋市が廃棄物の最終処分場として庄内川河口の「西一区」の干潟を埋め立てる計画を立てたことに対し、そこが渡り鳥の重要な中継地であり、多様な生物の生息地であることから保全活動をはじめました。15年にわたる活動の末、埋立計画は中止され、干潟は保全されるとともに名古屋市はごみ減量に取り組み、環境重視の政策に転換しました。

### 目的

直接的には干潟の保全が目的です。埋立計画の主因となったごみ問題の解消や、干潟とつながる河川や海域の環境改善など、総合的な「環境重視型社会」への転換をめざす活動でもあります。

### 取組内容

当初は野鳥の生息場所を保全するということで始まり、その後底生生物なども含めた生態系全体の保全活動に拡大しました。干潟での観察会の実施をはじめ、シンポジウムや学習会の開催、メディアを通じての啓発活動など多岐にわたる取組を行い、全国、さらには国際的な世論とも協力しながら保全にむけての機運を高めました。

特に当会が行った生物調査で水質浄化力の大きさを確認したことや、各地の湿地保全団体と協力して湿地・干潟の重要性の認識を広めたことなどは、保全を実現するうえで大きな役割を果たしました。

藤前干潟の保全はさまざまな主体の協力があって実現したもので、当会だけの業績と言えるものではありませんが、少なくとも当会が活動を続けていなければ実現しなかったとはいえると思います。

国内でも希有な自然保護活動の成功例であり、名古屋市の政策転換のきっかけとなったという意味でも大きな意義があります。「生物多様性条約第10回締約国会議」の開催や名古屋市が生物多様性の保全に取り組むようになったのも藤前干潟保全が発端となったものです。



生物多様性 COP10 名古屋会議にてブース出展

取組キーワード

森林	里山	河川	湖沼	湿地
海岸	公園	農地	野生生物の保護	外来種対策
ふれあい活動の場の整備	生物多様性に配慮した製品	地産地消	環境教育・普及啓発	地域貢献
協働	その他：			

## 今後の展望

藤前干潟の保全は実現しましたが、生物の減少や漂着ごみ・マイクロプラスチック、源流の森の荒廃、伊勢湾の貧酸素問題など、解決すべき課題は山積んでいます。今後もこれらの干潟をとりまく問題への取組を継続していきます。



干潟での観察会

生物多様性の保全

生物多様性の持続可能な利用

その他（教育・啓発等）

グッドプラクティス

## ガタレンジャー養成事業

活動期間 2002年～

1999年の藤前干潟埋立計画の中止、2002年のラムサール条約登録を受けて現地見学の需要が大幅に増加し、案内人の確保が急務となりました。4日間・約30時間の生物や鳥類についての知識、インタープリテーション等の技術、さらにごみや外来種問題等の講座を実施し、実際に現地で案内・解説ができる基本を身につけた修了者を「ガタレンジャー」として認定しており、毎年1回、累計18回の講座を実施し、2019年までに126名が修了しました。

## ガタレンジャー Jr. プログラム

活動期間 2009年～

2000年代に入り、藤前干潟保全活動の記憶が薄れ、関わった人たちも高齢化していく中で、次世代への継承を目的として、「ガタレンジャー Jr. プログラム」を開始しました。

小学校4年生から中学生までを対象に、年間7日間の活動を基本とし、野外体験とグループワークを通じ、その中で自分がどう行動するか考える講座を行っており、2019年までに11期実施し、169名が修了しました。

取組キーワード

河川

湿地

海岸

環境教育・普及啓発



干潟ガイド活動実習

河川

湿地

海岸

環境教育・普及啓発



ヨシ原での観察活動

ベストプラクティス  
受賞団体コメント



亀井浩次さん

## 特定非営利活動法人 藤前干潟を守る会

私たちはもともと、貴重な自然環境としての干潟を守りたいという目標をもって活動してきました。埋立計画は中止され、ラムサール条約登録も実現しましたが、環境の劣化は続いています。活動をこのような形で評価していただくことは励みになりますが、私たちのめざす良好な干潟環境の保全はまだまだ道半ばです。今後も努力を続けていきます。ご支援・ご協力よろしくお願い致します。

市民団体・NPO

企業

教育機関

行政・その他

# 山崎川グリーンマップ、「あいちの海」グリーンマップ

## 地域の子どもたちによる昔の様子聞き取り調査

**活動期間** 2010年～

**活動場所** 名古屋市 等

**web** 山崎川グリーンマップ <http://www1.m1.mediacat.ne.jp/a-ohya/>

「あいちの海」グリーンマップ <http://www1.m1.mediacat.ne.jp/aichisea/>



### ポイント

環境の変化によって見られなくなった生きものの情報はほとんど残っておらず、それを聞き取り記録として残していくことは非常に重要です。

子どもが聞き取りを行うことで地域の世代を越えたつながりを生み出しています。

## 背景・経緯

日本では、第二次世界大戦後の七十数年間に開発や都市化、外来種問題、そして近年では、温暖化により、環境の変化が著しくなっています。そして、これらに伴う生物の生息状況も変化が激しく、地域によってはすでに絶滅して見られなくなった生きものも多くいます。

戦前、戦後直後の時代には、生きものはいて当たり前であり、科学的な調査や存在が確実にわかる写真もほぼ存在していません。

私たちは、生きもの調査、外来種駆除を行う中で、地元のお年寄りから子どもころ遊んだ思い出を聴く機会が多々ありました。お年寄りたちの話には、今ではいなくなってしまった生きものたちの貴重な情報が盛りだくさんです。これらは、科学的な裏付けはほぼ採ることはできませんが、後世に残しておく価値があるものです。

## 目的

山崎川や身近な海の話、生きものが時代とともにいなくなっているという話、それを記録として残すだけでなく、次世代に伝えたいと考えています。それができる有効な方法として、地元の子どもたちがお年寄りを訪ねて聞き取りをするという方法をとりました。環境や生物保全の問題は、長い時間が必要であるため、若い世代に環境変化によっていかに生物がいなくなっているのかを伝えたいと思いました。

## 取組内容

山崎川とその周辺の生物調査・外来種駆除を行う中で声をかけてくれた地域のお年寄りなどを中心に、地域の子どもたちが昔話を聞いて、生きものに関わることを中心としてまとめました。絶滅した生きものについては、証拠となる写真、標本が存在しておらず、科学的証拠がないものがほとんどですが、諸状況を調査し、絶滅の可能性が高いものは絶滅として掲載しました。

聞き取り者は、瑞穂区汐路、豊岡、陽明小学校と南区菊住小学校の在學生と卒業生であり、数年をかけて行いました。特に2015年度は、なごや環境大学共育講座として活動を行っています。



聞き取りの様子①

取組キーワード

森林	里山	<b>河川</b>	湖沼	湿地
<b>海岸</b>	公園	農地	野生生物の保護	外来種対策
ふれあい活動の場の整備	生物多様性に配慮した製品	地産地消	<b>環境教育・普及啓発</b>	<b>地域貢献</b>
<b>協働</b>	その他：			

海については、南知多町大井・片名地区において、山崎川の聞き取り調査が完了した 2016 年度より開始し、2018 年度に完了しました。こちらの聞き取り者は、南知多町大井小学校の児童及び師崎中学校の生徒、また、名古屋市立大学及び名城大学の学生です。

山崎川とその周辺の昔の聞き取り調査は、2015 年度末に完了しました。その結果を「山崎川いま・むかし 総集編」として 38 ページの冊子とりまとめ 1,000 部作成しました。3 月 6 日に名古屋市立大学本部棟 4 階ホールにおいて、「山崎川いま・むかしセミナー」を開催し、冊子を配布しました。このセミナーには、参加者及びスタッフの合計 148 名が参加しました。

南知多町大井・片名地区については、2018 年 1 月に聞き取りが完了しました。その結果を「大井・片名いま・むかし その2」として 30 ページの冊子に取りまとめ、500 部作成しました。

また、2019 年 1 月には、南知多町師崎中学校生徒全員を対象に中学校前のアマモ場の生物調査及び昔の聞き取りの発表を行いました。



聞き取りの様子②



完成した聞き取り集

## 今後の展望

2020 年度は、2019 年度より始めている聞き取り調査と実際の調査をベースにした、山崎川のレッドデータブック及びブルーデータブックの作成を予定しています。

また、2021 年度から 2022 年度は、南知多町師崎中学校学区内での昔の様子の聞き取り調査を実施する予定です。

ベストプラクティス  
受賞団体コメント



大矢美紀さん

## 山崎川グリーンマップ、 「あいちの海」グリーンマップ

COVID-19 収束後の社会を考えたとき、地域密着、周りにある自然環境との共生は、一つのキーワードになるかと思います。開発や地球温暖化によって失われた自然は取り戻すことは出来ませんが、若い世代が作り出す未来は確実に訪れます。新しい未来を形づくるときに、過ぎ去った地域の移り変わりの姿が参考になればと願うばかりです。それが聞き取りに協力してくれた大人たちの総意だと思えます。

市民団体・NPO

企業

教育機関

行政・その他

## 特定非営利活動法人 アースワーカーエナジー

### 天使の森プロジェクト

活動期間 2008年～

活動場所 岡崎市東河原町 等

web <http://www.ewe.org/>

岡崎市において、水源地の自然豊かな奥山作り、里山から街、海に至る河川流域の環境と産業のバランスのとれた地域を築くことや、子どもを主体として市民が参加する活動が必要とされていました。そこで、自然の大切さを知り、自然への配慮と環境共生型ライフスタイルを市民が身につけられるように、2008年に天使の森プロジェクトが発足しました。

生きものの豊かな奥山作りのために未利用の産業林を伐採し、地域在来種による植樹活動をしています。また、一般の方も参加できる勉強会やセミナーを開催したり、企業における自然環境を学習する研修会も行いました。ほかにも、天使の森プロジェクト展の開催では多くのメディアにも取り上げて頂きました。今後は、環境学習の場を整備するとともに、2035年を目処に、自然林の転換を目指していきます。また、有識者の方達との連携を図り、環境と産業のバランスのとれたまちづくりに寄与していきます。

#### 取組キーワード

森林

里山

環境教育・普及啓発

地域貢献

協働



天使の森での植樹



天使の森山頂での環境学習

## あいちエコヤギネットワーク

### 生物多様性の主流化に向けたエコ除草推進事業

活動期間 2016年～

活動場所 新城市 等

web <https://ecoyaginnw.wixsite.com/aichi-ecoyagi>

酷暑の中で人力で草刈を行うことは重労働です。また、過疎化の影響もあり、耕作放棄地は年々増加しており、自然保全活動を行う担い手も不足しています。耕作放棄地の増加は生物多様性の劣化にもつながるため、従来の燃料を使用した機械による除草ではなく、ヤギを期間放牧することで環境負荷の少ないエコロジー除草を行っています。

耕作放棄地等の維持管理が困難な農地で、従来の燃料を用いた機械式除草よりも環境負荷の少ないヤギの期間放牧によるエコ除草活動を行うことで、高齢化や人口減少等により農地の保全の担い手が不足する地域社会に、環境負荷の少ない持続可能な除草事業モデルを提供しています。また、ヤギミルクの加工体験を通じた環境学習や成果報告会の実施など、普及啓発活動に努めてきました。SDGsの取組普及を目指す企業においても、化石燃料に頼らないエコヤギ除草に注目しています。今後は企業緑地においてもエコ除草が広めていくように活動していきます。

#### 取組キーワード

里山

農地

外来種対策

環境教育・普及啓発

地域貢献



エコ除草風景



ふれあい体験企画

生物多様性の保全

生物多様性の持続可能な利用

その他（教育・啓発等）

# あいち海上の森フォーラム実行委員会

## あいち海上の森フォーラム

活動期間 2017年～

活動場所 あいち海上の森（瀬戸市海上町）等

web <https://sites.google.com/kaisyoforum.com/kaisyoforum/>

2016年に多様な主体が参加して当会を組織しました。愛・地球博から10年間開催された「人と自然の共生国際フォーラム」の取組を継承するため、「人と自然の共生」を分かりやすく、かつ幅広く発信することを目的とし、2017年から「人と自然が共生する社会づくり」を目指した活動を行っています。その中で、シンポジウムやセミナーの開催、多様な主体が実施する活動との連携やネットワークづくり、報告書の発行などを行っています。

シンポジウムは、専門家を招き、「人と自然の共生の途」や「SDGsにおける生物多様性・生態系保全」などをテーマに開催しました。また、共生ネットワーク促進事業として、自然観察会、田んぼの学校・稲刈り体験、海上の森自然ウォッチング、ネイチャーゲーム体験等を行い、人と自然の共生教室では名古屋市の水辺の生きもの調査や海上の森収穫感謝祭へ参加しました。今後も専門家の講演だけでなく、個人や団体・企業などの活動発表や取組紹介も行い、各団体とも連携し、様々な取組を発信していきます。

取組キーワード

森林

里山

環境教育・普及啓発

協働



海上の森自然ウォッチング



第1回シンポジウム

生物多様性の保全

生物多様性の持続可能な利用

その他（教育・啓発等）

# 特定非営利活動法人 愛知環境カウンセラー協会

## 三河湾環境再生ワークショップ

活動期間 2012年～

活動場所 三河湾流域

web -

当会は、「愛知県・三河湾環境再生プロジェクト推進委員会」のメンバーとして参画するとともに、三河湾再生のキーワードとして「上流と下流の連携・協働」を重視し、普及啓発活動を行うとともに、「三河湾環境再生ワークショップ」を継続的に開催してきました。

主な活動として、三河湾の現状を把握し、流域レベルの環境保全活動の事例に触れつつ、三河湾浄化に向けた活動の推進に貢献しています。三河湾流域全体で環境保全、環境再生、生物多様性保全に関わる取組を活性化し、山間地域から沿岸につながる流域レベルでの情報発信を強化しています。「上流・下流の連携・協働」の重要性を認識し、現場で実施するワークショップとして、海域や海浜の視察や河川流域を巡り、流域内の環境保全活動に触れることにより、参加者に対して三河湾の現状把握と課題の認識、整理を行ってきました。また、生物多様性の保全やSDGsの観点とのつながりもわかりやすく伝えられるように心がけています。

取組キーワード

環境教育・普及啓発

協働



ワークショップの結果概要



三河湾の現状調査

## 愛知守山自然の会

### 名古屋市自然遺産であるマメナシを次世代に残すための取組

活動期間 2011年～

活動場所 名古屋市

web -

愛知県・岐阜県・三重県のマメナシの自生地での現地調査を会の設立当初の2004年8月から行ってきました。しかし、移植や植栽が拡大する中で、本来の生育場所と植栽の実態を把握する必要があり、自生地の行政や管理者と連携して2011年9月からマメナシ再調査ツアーを実施し、自生しているマメナシを全国で80か所350株、守山区では150株が確認できました。

守山区では、自生するマメナシ150株のうち80%が公共の公園で管理されており、これらを次世代に残すための活動をしています。2012年以降、小幡緑地はじめ守山区周辺の樹勢調査を、2016年には「マメナシを知る会」を開催し、地元住民ほかマメナシのある桑名市等からも100名以上の方が参加しました。2016年から2018年まで行政・大学・市民団体・地元住民による守山事業を立ち上げて区内のマメナシの樹勢調査を再度実施し、樹名板による個体識別を行いました。2017年には、「蛭池のマメナシを守る会」を発足させ、継続して春・秋の観察会を実施しています。2018年には、地元の2団体や桑名市等にも呼びかけマメナシサミットを開催し、100名以上が参加しました。

#### 取組キーワード

里山

湿地

公園

地域貢献

協働



実生のマーキング



マメナシの保全講座

## 特定非営利活動法人 愛猟

### 鳥獣被害の啓発及び狩猟者育成活動

活動期間 2019年～

活動場所 つげの活性化ビレッジ（新城市黄柳野）

web <https://aichiairyowixsite.com/wildworks>

当会は、一般の市民に対して、鳥獣被害や駆除について情報発信や啓発のための広報・講演・教育活動、加えて狩猟者の育成に関する事業を行い、鳥獣被害に関する理解の浸透や狩猟者数の拡大などに寄与するための活動をしています。

野生動物と人間社会のバランス関係に変化が生じ、農業被害、自動車や列車との追突事故、希少種の喪失、感染症問題などが心配されています。また、狩猟者は高齢化により減少しており、そのため狩猟技術の維持や継承が必要です。アースデイしんしろでの出展では、鳥獣被害などの写真を展示し、野生動物の駆除活動の情報や被害情報の啓発を行い、鳥獣害対策の必要性を参加者へ情報提供しました。また、野生動物クイズラリーや有害駆除活動で駆除されたイノシシやシカを使ってのアクセサリーやペンダントづくりの体験事業、模擬銃及び狩猟で使用するわなの展示を行いました。今後も鳥獣被害を社会全体の問題として捉え、広く情報を普及させ、狩猟者の担い手を育成していきます。

#### 取組キーワード

森林

里山

生物多様性に配慮した製品

環境教育・普及啓発



模擬銃を使った啓発活動の様子



皮を使ったクラフト品の販売及び体験

生物多様性の保全

生物多様性の持続可能な利用

その他（教育・啓発等）

## 特定非営利活動法人 渥美半島ハイキングクラブ

### 渥美半島の里山保全とハイキングコースの活用

活動期間 2002年～

活動場所 あつみトレイル「渥美半島横断ハイキングコース」(田原市)

web <http://atsumihanto-hc.seesaa.net/>

地域住民もかつては<sup>きのこ</sup>茸や薪・炭の材料を得るため山に入っていました。社会構造の変革により、徐々に入山回数も減り、その影響で里山も荒れていきました。そこで、子どもの頃は身近な遊び場だった山道を、里山の自然歩道として甦らせる活動を始め、かつての自然環境に恵まれた渥美半島に近づけるように活動をしています。

歩道整備は、貴重な生きものが生息できる、環境負荷の小さい方法で取り組んでいます。活動当初は、自然歩道の整備や登山教室を開催しました。現在は、自然歩道の手入れ、ハイキングイベントの開催やハイキングマップの発行、地域の市民イベントにも出展しました。また、自然環境保護の啓発、自然観察・清掃登山開催事業や渥美半島の登山道の維持、整備事業、渥美半島の自然の保護・復元、広報事業などを行っています。今後も自然環境の保護と地域のまちづくりのため、行政、企業、NPO や市民などと協働し、活動を実施していきます。

#### 取組キーワード

里山

ふれあい活動の場の整備

環境教育・普及啓発

地域貢献

協働



渥美半島 10 名山



自然に親しむハイキング

生物多様性の保全

生物多様性の持続可能な利用

その他（教育・啓発等）

## 石原林道協議会

### 子どもの自然体験案内

活動期間 2018年～

活動場所 岡崎市額田地区 等

web -

山林に囲まれた岡崎市額田地区の子どもたちでさえ、環境学習の機会は限られています。林道を管理し森林を保全する当団体は、子どもたちが森林への理解を深め、森林の伐採現場や活用状況を見学し、生態系保全に関する学習を行う必要性を感じていました。そこで、2018年から子どもたちを森林に招き、自然環境をとらえる出発点となる学習活動を開始しました。

初年度の活動は、地元小学校の児童と一緒に、自然体験の中で「歩く」、「聞く」、「作る」、「食べる」の4テーマに取り組みました。次年度は、地元小学校だけでなく、額田地区4小学校の児童、保護者にも参加を呼びかけ、森林の活用を重点に、自然体験を「訪ねる」、「比べる」、「活かす」、「調べる」、「親しむ」の5テーマを設定して、幅を広げた取組ができました。水源の森を訪ね、昔と今の林業を比べ、トヨタテクニカルセンター下山で生態系保全の大切さを学び、製材工場を見学して材木で造られる橋を見学しました。今後は額田地区で活動する他の団体とも連携し、環境学習の活動を継続します。

#### 取組キーワード

森林

里山

生物多様性に配慮した製品

環境教育・普及啓発

地域貢献



倒れた大木を避けて通る体験



額田産木材の橋建設現場見学

# 一宮平成ホタルの会

## ホタルも生息できる環境づくり

活動期間 2000年～

活動場所 大野極楽寺公園野鳥園（一宮市浅井町極楽寺）

web <http://www.hotaru138.com/>

当会は、ホタルも生息できる環境や自然がどうあるべきかを考えています。多様な生きものが生息できるよう、私たちの身近な自然環境を改善、保全、活用し、それを守り育て、会員相互の親睦を図ることを目的としています。2000年に「ホタルが舞う姿をもう一度、私たちのまちに、子供たちに」を合言葉に、「市民参加のまちづくり」の一環として活動を開始しました。

主な活動は、ホタルも生息できる水辺環境の創出・保全のほか、ホタルの飼育、観賞会の開催や啓発活動、河川等の清掃ボランティア活動への参加です。地道に活動を続け、今年で活動20周年を迎えました。その結果、園内の環境が改善し、ヘイケボタルの自生が確認されるようになり、合わせてヒメボタルの数も増えました。また、他のNPO団体や学校等に対し、ホタルの譲渡やホタル飼育の指導を行うなど、ホタル関係のネットワークを形成し、ホタルを通じた環境活動をリードしています。ホタルの幼虫の放流体験や市民向けのホタル観賞会を毎年開催し、ホタルを通じた環境保全の啓発、意識向上にも寄与しています。

### 取組キーワード

野生生物の保護

環境教育・普及啓発

協働



観賞会（ホタル観賞の夕べ）



暗闇の中で幻想的に光るホタル

# 特定非営利活動法人 犬山里山学研究所

## 犬山水生生物園整備事業

活動期間 2011年～

活動場所 犬山市大善師野平谷

web <http://www.satoyama-gaku.jp>

犬山市には東海丘陵要素植物が多く自生していますが、年々湿地の陸化と乾燥化等によって、湿地の衰退や自生種の減少が進み、このままだと絶滅する種も多数出てくると予想されました。そこで、湿地生物等の種の保存のために「あいち森と緑づくり環境活動・学習推進事業」の助成金を活用して、犬山市善師野地区における耕作放棄地の湿地田を利用し、絶滅危惧にある湿地生物種の保護のための活動を2011年12月から開始しました。

最初は耕作が放棄され湿地化していた場所に、繁茂していた笹やヨシなどを除去して湧水の動きを改善するための水路溝を掘り、犬山市内に自生している湿地性植物等の移植及び播種をしました。播種にあたっては谷間の微気象条件を考慮し、現地に育苗棚を設置して発芽させ、個体数を増やして定植する方法をとりました。また、湿地の保護と観察を容易にするため木道を設置し、学童、一般市民向けの観察会、環境学習の場として活用できるようにしました。今後とも在来種の保護活動や環境学習、作業体験を通じて、一般市民の憩いの場として利用できるようにしていきます。

### 取組キーワード

里山

湿地

野生生物の保護

環境教育・普及啓発

協働



湿地性植物の観察会



湿地性植物の保護整備活動

生物多様性の保全

生物多様性の持続可能な利用

その他（教育・啓発等）

## 岩崎里山の会

岩崎広場（里山）の自然を活かし・親しみ・楽しみ・癒される場の復活

活動期間 2005年～

活動場所 岩崎広場（豊橋市岩崎町）

web -

未来に残せる自然を活かした里山の復活や、自然環境づくりを目指し、郷土の自然を理解して、人と自然の新たな共生関係を見つけるとともに、自然環境保全に貢献するための活動を豊橋市と協働で行っています。

人の手が入らず放置されて荒廃した里山や森林部分において、不要な樹木の除間伐と下草刈り及び植樹を行い、庭園部分は景観保持として花木の剪定と育成や定期的な雑草刈りを実施しています。また、散策路の安全確保のため毎月一回巡回し、枯木・倒木処理と清掃を実施するとともに、除間伐した不要になった竹木を活用し、炭焼き・椎茸栽培に取り組んでいます。雑木林の整備活動では、陽光と風を潤沢に取り入れて貴重な林床植物の保護育成に努めました。今後、次世代のボランティアとなる人材を育成しながら、里山保全活動の大切さを普及啓発していきます。

取組キーワード

里山

公園

地域貢献

協働



花壇の植替作業中



庭園の草取り

生物多様性の保全

生物多様性の持続可能な利用

その他（教育・啓発等）

## 大高竹の会

大高緑地の竹林の保全整備と竹炭づくり

活動期間 2004年～

活動場所 名古屋市

web -

2001年、緑区のボランティア養成講座の中から、花水緑の会が発足し、そこから2004年に竹林の保全整備等を行う大高竹の会が発足しました。健全な竹林の維持や整備で排出される竹材を原料にして竹炭を作ることなどを目的に、竹林整備活動や作った竹炭をイベント時に住民の方に配布する等の活動を行っています。また、一般参加の体験講習会やイベントにおける竹切体験等を実施しています。

大高緑地 猪根の森  
森づくり基本構想に基づくプラン作りと保全活動

活動期間 2015年～

活動場所 名古屋市

取組キーワード

里山

公園

ふれあい活動の場の整備

環境教育・普及啓発

協働



大高竹の会集合

里山

公園

ふれあい活動の場の整備

環境教育・普及啓発

協働



大高竹の会森づくり

## おかざき湿地保護の会

### 湿地保全活動と湿地を活用した環境啓発

活動期間 2007年～

活動場所 北山湿地（岡崎市池金町）等

web <https://genki365.net/gnko/mypage/index.php?gid=G0000958>

2002年頃、岡崎市内の北山湿地及び小呂湿地において、植生の遷移が進み消滅のおそれを確認したため、地元住民による周辺林の除伐や草刈りなどの保全活動を開始しました。その保全活動を引き継いで、2006年に失われつつある湿地の特殊な環境と絶滅が危惧される希少種をはじめとした湿地生態系全般の保全を行うため、「おかざき湿地保護の会」を設立し、現在に至るまで様々な湿地の保全活動や将来の担い手育成を行ってきました。

現在は、両湿地での毎月2回の保全活動を実施するとともに、定期的に一般参加の観察会を実施しています。また、ギフチョウなどの捕獲防止の観点から希少種の保護パトロールを行っています。活動にあたっては、植物や昆虫の専門家の指導を受けつつ、活動の裾野を広げ、将来の担い手育成の観点から、地元の教育機関（中学校から大学まで）や地元企業の活動の受け入れを行っています。

#### 取組キーワード

里山

湿地

野生生物の保護

環境教育・普及啓発

協働



企業からのCSR活動受け入れ



湿地の定期観察会

## 乙北ため池クリーンの会

### ため池クリーン & かいどり作戦

活動期間 2015年～

活動場所 葭池（半田市南大矢知町）等

web -

地域間交流と小中学生との世代間の交流促進を図り、あわせて「環境整備・環境教育」と「生息生物調査と観察会」、「外来種駆除による生態系保全」を楽しみながら力を合わせて実施し、一体感・達成感を醸成するために、2015年から事業を開始しました。

ため池の水抜きによる水質改善を図り、ため池内外のごみ除去を行う環境整備活動では、ミニバイク、自転車、浴槽、洗濯機、タイヤ等大型ごみの他、空き缶、ペットボトル、たばこの吸い殻、菓子袋等プラスチック類を多数回収し、環境意識の向上を図りました。また、生物の生息調査と観察会を行い、生物学習の場としたり、外来種の駆除を行い生態系の保全を図ることも行っています。捕獲魚類については、いずれの池もヘドロが1m近く堆積しており、アカミミガメ、アメリカザリガニ、ウシガエル等は、ヘドロ内に隠れてしまい捕獲が難しいのですが、捕獲・駆除に努めています。この活動を通じて在来種のフナ類、エビ類、モツゴ等を多数捕獲しており、生態系が保全されていることが確認できました。

#### 取組キーワード

外来種対策

環境教育・普及啓発

協働



外来種駆除と生息生物調査風景



池内外より回収されたごみ類

生物多様性の保全

生物多様性の持続可能な利用

その他（教育・啓発等）

## 尾張サンショウウオ研究会

### 尾張地区のヤマトサンショウウオの保全活動

活動期間 1999年～

活動場所 名古屋市

web -

名古屋市内の東部丘陵地帯に生息するヤマトサンショウウオは、開発による生息数の減少が懸念されている一方、個体数が把握できていなかったため、市民活動家を中心に1999年から調査を開始すると同時に産卵地の整備や遺伝学的研究に取り組んできました。

生息数の動向観察、生息地の保全活動、保全への助言やレッドリスト作成等に向けた調査データの提供、さらには、遺伝的多様性保全の観点から、各生息地点における集団の遺伝的多様性のモニタリングも実施し、尾張地区からヤマトサンショウウオが姿を消さないよう努めています。

産卵期の2月から3月を中心に活動し、生息数把握のための調査や産卵地の整備を行ってきました。また、生息数の少ない集団では、卵から幼生の期間に生息域外保護飼育を行い、保全活動を行ってきました。遺伝的解析では、幼生を用いて、本地域の個体群の遺伝的多様性を明らかにし、この成果は名古屋市版レッドリストの基礎資料として活用されています。

#### 取組キーワード

森林

里山

湿地

野生生物の保護

その他：遺伝学的研究調査



ヤマトサンショウウオ♀



ヤマトサンショウウオ卵囊

生物多様性の保全

生物多様性の持続可能な利用

その他（教育・啓発等）

## 一般社団法人 ガールスカウト愛知県連盟

### ジュニアホップステップ・キャンプ

活動期間 2019年～

活動場所 愛知県民の森（新城市鳳来寺）

web -

野外活動を通し、体験プログラムの中で、「森の大切さ」、「森林保全」などの意識を高め、環境問題への視野を広げることや、「愛知県民の森（新城市鳳来寺）」という豊かな地域の自然にふれ、地域への貢献を考える必要があると考え、当会としてこの活動を行うことにしました。

県民の森の自然を体感し、木の生態や、川の様子を調べる課題に取り組むことや、グループごとに竹を利用してカヌーを制作したり、実際に川でカヌーに乗る体験活動を行いました。また、野外炊事・キャンプファイヤーを実施しました。その結果、ジュニアスカウト（小学生4年生～6年生）が課題をこなし、自然の中で森・水の大切さを知り、身近な自然に目を向けられるようになりました。今回の体験活動を通し、自分で考えて行動する力を身につけることもできましたので、さらに活動の幅を広げていきたいと考えています。

#### 取組キーワード

森林

環境教育・普及啓発



風穴までハイキング



キャンプファイヤー

市民団体・NPO

企業

教育機関

行政・その他

## かすがい里山自然楽校

### 市民憩いの森づくりプロジェクト

活動期間 2019年～

活動場所 春日井市潮見坂平和公園（春日井市）等

web -

春日井市潮見坂平和公園では産業廃棄物や家庭ごみが散見される状態でしたが、公園内でオオタカやメダカ、ツマグロキチョウ、ヒメタイコウチなど希少種の生息が確認されました。これらの生息地保全と地域のための体験学習の場として整備することを目的に「かすがい里山自然楽校」を2012年に設立しました。

春日井市潮見坂平和公園内で、湿地や水辺の整備を通じて、ヒメタイコウチやヘイケボタルの保護に成功しました。また、ヒメカンアオイやスズカカンアオイの成長を確認できるまでに整備を進めることができました。環境学習の場として年8回共育講座を開き、親子の自然環境体験・学習会を実施したり、地元の幼稚園児や子ども会の児童を招待して里山の自然体験活動を行っています。今後は、過去の実績を踏まえ、体験型活動ができる公園整備に努め、多くの市民が参加できるフィールドを整えるとともに、希少種の保護活動を行っていきます。

#### 取組キーワード

里山

湿地

ふれあい活動の場の整備

環境教育・普及啓発

地域貢献



竹明かり「ナイトハイク」



雑木林の枝打ち作業

## 刈谷環境支援員の会

### 外来生物の駆除（除草）と啓蒙活動

活動期間 2016年～

活動場所 発杭川（刈谷市）等

web -

繁殖力の強い特定外来生物であるオオキンケイギクが、日本の在来植物（カワラナデシコ、カワラサイコ等）の脅威になっています。希少な植物を守るために、駆除活動を通して環境保全の必要性を市民とともに体験してもらうために、当会を設立しました。

主な活動として、オオキンケイギクの駆除を通して特定外来生物の現状を理解し、環境保全活動を体験してもらっています。また、非常に繁殖力の強いアカミミガメが、在来のニホンイシガメの生息場所を奪ったり、ホタルの幼虫や昆虫や水草等を食べてしまい、生態系や農業に被害が出ている現状を市民に知ってもらう啓発活動を行っています。

今後も地元企業や市と協働して活動を行い、各公共施設等に告知ポスターの掲示依頼や、支援員による地域住民へのポスティングによる普及活動を行っていきます。

#### 取組キーワード

河川

外来種対策

環境教育・普及啓発



恩田川沿いの駆除活動



発杭川沿いの駆除活動

## 環境学習ネットワークグループ

### ギフチョウのすめる里山環境づくり

活動期間 2012年～

活動場所 みろくの森（春日井市巡間町高森）

web -

当会は小学生の環境教育の支援を主活動にしていますが、2012年から自主的な活動として春日井市の指定希少野生動物種であるギフチョウの保護活動をすることにしました。

ギフチョウの保護活動として、自然環境保全活動推進員の協力の下に、里山の樹木の混和状態を除伐により緩和し、枯れ木・倒木を処理しています。これにより、ギフチョウの吸蜜・食草植物の繁殖促進を図り、より良い環境を整備し、ギフチョウの増殖を計画・実施しています。

このような里山の管理を実施した結果、場所により林内が明るくなり、吸蜜・食草植物が成長し、増殖するようになりました。また、ギフチョウの卵数調査・幼虫調査、成虫の頭数を調査した結果、2016年では卵数・幼虫数69個だったものが2019年には162個となりました。今後とも吸蜜植物の繁殖の促進活動や環境教育の場として活用できるように、活動を進めていきます。

取組キーワード

里山

野生動物の保護



スズカカンアオイ株数調査



間伐・除伐作業の様子

## 間伐こもれび会

### 森林の整備活動で取り組む三河湾の生物多様性の保全

活動期間 2016年～

活動場所 県有林（豊田市羽布町）等

web <https://kouboukomorebi.jimdofree.com/>

林業の衰退は全国的な課題ですが、愛知県の林業も同様に停滞しており、森林の持つ森の生物多様性の維持、水源の源、大気の浄化、天然のダム、災害の防止といった公的機能などが低下しています。また、三河湾は、森林から供給される豊富な栄養素と良質な砂が、アサリ、ガザミ、クルマエビなど、全国有数の水揚げ高を誇る魚種を育み、豊かな生物多様性を作り上げてきました。しかし、森林が荒廃すると栄養素を供給できなくなり、森林から流出する土砂により、良質な砂で形成された干潟が流出土砂に覆われてしまいます。また、開発等により三河湾の約41%の干潟が失われたと言われてしています。

当会は、森林を健全に保つため、継続的な森林の間伐・整備活動をする団体として設立されました。森林の間伐整備活動は、岡崎市額田地区私有林及び愛知県県有林などで、年間約50日取り組んでいます。また、森林の間伐・整備の重要性の啓発や木育を目的に、間伐材で「積み木」や「間伐材アイテム」を制作し、地域の保育園に寄贈したり、地域イベントに出展しています。

取組キーワード

森林

生物多様性に配慮した製品



森林の間伐作業



間伐材搬出作業

## 清田地域環境保全会・免々田川を守る会

### 地域の宝 免々田川のゲンジボタルに託す夢 - 竹炭による水質浄化 -

活動期間 2006年～

活動場所 免々田川一帯（田原市山田町）等

web -

「豊かな自然環境・みんなに愛される地域・みんなで作る」をテーマとし、子や孫の世代まで豊かな地域の姿を共有し合うため、免々田川の清流に生息するゲンジボタルを保護する活動を2006年から開始しました。

ゲンジボタルの幼虫の餌カワニナは清流に生息し、亜硝酸、アンモニアが検出されない水質状態を保つとされています。また、竹炭は多孔質で亜硝酸、アンモニアの吸収率も高く、それ自体が好気性でバクテリアの優れた濾材ともなり、さらに水中のミネラルやマイナスイオンを放出するとも言われています。そこで、里山を荒らす原因ともなっている孟宗竹を炭にして川に設置し、水質浄化に有効活用を図ることにしました。

川面に飛び交うゲンジボタルの数は年々増加し、生息域も下流に広がり、鑑賞者も増えてきました。これからも、自然を愛し、自然とともに生きる地域づくりに取り組んでいき、あわせて環境保護に関して主体的に取り組める人材の育成を行います。

#### 取組キーワード

里山

河川

野生生物の保護

環境教育・普及啓発

地域貢献



新しい竹炭との取替



竹炭づくりに励む小学生

## 特定非営利活動法人 グラウンドワーク東海

### ホタルの生息環境づくりと次世代継承の取組 ～未来へつなぐ子供たちの夢～

活動期間 1997年～

活動場所 内山川（豊橋市岩崎町）

web <https://ja-jp.facebook.com/uchiyaama.firefly>

内山川（豊橋市東部）は、昭和30年代前半までゲンジボタルがたくさん舞う環境でしたが、1996年の河川改修工事以降、ホタルが見られなくなりました。そこで、かつての自然環境とゲンジボタルの舞える生息域を蘇らせるため、1999年に「内山川ホタルを守る会」を設立し、「未来へつなげよう私たちの川」をスローガンに、河川及びその周辺環境の改善の取組を始めました。

1997年から地域の自治会が河川の清掃を開始し、2004年からは内山川ホタルを守る会としてコンクリート側壁両岸に溶岩パネルを張り、その後は豊橋市や地元小学校の協力を得て、パネルを張る作業を継続しました。その結果養殖・放流を一切せず、2008年には、発生区間約600mに1,500匹ほどのホタルが舞うのが確認されました。さらに2019年には、発生区間約1.4kmに約3,000匹が確認されました。また、小学生たちの協力により、溶岩パネルを張る作業が継続され、環境学習の場としても活用されています。5年後、10年後にはさらに多くのホタルが舞うことを目指し、活動を継続します。

#### 取組キーワード

河川

野生生物の保護

環境教育・普及啓発

協働



溶岩パネルの裏面に描いた夢



溶岩パネル張り作業

生物多様性の保全

生物多様性の持続可能な利用

その他（教育・啓発等）

## 鞍掛山麓千枚田保存会

自然環境保持・環境学習・生きものと共生したコメづくり

活動期間 - 活動場所 新城市四谷 等  
web -

四谷の千枚田は、日本棚田百選に選ばれており、鞍掛山の湧水が棚田を潤し、山地特有な気象条件を生かした稲ハザも魅力的で、日本三大石積みの棚田でもあります。耕作をすること自体は厳しいですが、多様性に富んだ生きものの空間としての条件は優れています。当会では、人の手で壊した自然環境の再生「手心を加えれば再生は可能」を合言葉に活動しています。

生きものと共生した体に優しいコメづくりの実践や稲作体験、モリアオガエルの移植、地元小学校、高校等の環境学習（稲作体験）の受け入れ、企業にも参加を呼びかけてのビオトープ造成、管理などに取り組んでいます。また、諸外国からの中山間地域農業研究生の視察対応も行っています。地元の自然科学博物館の観察会や夏季における四谷の千枚田をテーマにした特別展も開催されました。今後も、この自然に恵まれた四谷の千枚田の保全活動を継続していきます。

### 取組キーワード

里山

農地

野生生物の保護

ふれあい活動の整備

地産地消

環境教育・普及啓発

地域貢献



稲刈り体験活動



四谷の千枚田の全景

生物多様性の保全

生物多様性の持続可能な利用

その他（教育・啓発等）

## 劇団シンデレラ

COP10 ガールズ

活動期間 2009年～2012年 活動場所 名古屋市 等 web <http://www.dozira.net/>

ミュージカルは、難しい内容であっても子どもから大人まで楽しみながら多くの人に分かりやすく伝えることができます。生物多様性をわかりやすく多くの人に伝えるため、COP10に合わせて劇団内に「COP10 ガールズ」というユニットを結成しました。会議開催の1年前からCOP10を広く市民にPRし、会期中には「生物多様性交流フェア」において公演を行い、多くの来場者に生物多様性の重要性を伝えました。

### 取組キーワード

森林

里山

湿地

海岸

環境教育・普及啓発



琵琶湖での公演

森林

里山

湿地

海岸

環境教育・普及啓発

## ESD ミュージカル

活動期間 2011年～2014年 活動場所 名古屋市 等

COP10と同様に2014年11月に愛知県名古屋市で開催された「ESDに関するユネスコ世界会議」の3年前より、多くの人に「ESD」と「生物多様性」の重要性を伝えるため、「ESD」及び「生物多様性」を盛り込んだ「ESD 生きものミュージカル」等を制作して上演活動を開始しました。2011年～2014年の間に日本各地、マレーシア、タイなどアジア各地で約120回もの公演を実施しました。



久屋大通公園での公演

## さがらの森もりクラブ

### さがらの森 整備保全

活動期間 2005年～

活動場所 さがらの森（蒲郡市）

web <https://miyasatoyama31080.themedia.jp>

2003年にさがらの森の管理が愛知県より蒲郡市に移管され、地元大塚地区自治会が管理していました。それを引き継ぐかたちで、さがらの森の運営や保全活動を行うためにさがらの森もりクラブを発足しました。

故郷の里山であるさがらの森における貴重な自然環境の保全を図るとともに、多くの人々がさがらの森を身近にある里山の森として楽しみ、自然の持つ四季の変化から動植物の様子についての学習や体験の場として活用しています。さらにボランティアの活動の場とし、自然を通じた交流を深めるためにも活動しています。

具体的には、さがらの森の除草等整備作業（ささゆり群生地保護等）や竹炭焼き作業（里山荒廃対策で間引きした竹を材料にした竹炭焼き）を行っています。また、例年4月下旬にさがらの森で行われる「森の文化祭」の会場整備や体験教室の実施（竹炭焼き体験、キャンプ体験等）、倒木を利用したキャンプ用の薪作り、四季の花を楽しむ花壇づくりを行っています。

#### 取組キーワード

里山

野生生物の保護

ふれあい活動の場の整備

環境教育・普及啓発

地域貢献



炭焼きの作業



除草作業

## 森林インストラクター会“愛”

### 子どもも大人も樹木博士&なぞとき樹木探偵

活動期間 2008年～

活動場所 名古屋市 等

web -

森林インストラクターは、森林や林業に関する知識を伝え、森の案内などを実施する指導者であり、1995年より愛知県民・市民の方々を対象に生物多様性など森の役割についての森林環境教育等を実施してきました。

生物多様性の認知には子どもの頃から“森を楽しむ・森を知る”体感・体験が基本と考え、都市を中心に「森を楽しむ、森に親しみをもち」から「森から学び、森の恵みを知り、森の大切さを感じ取る」、「森への感謝と行動に繋げる」と一貫性のある森林環境教育を実施しています。

樹木博士講座は、2008年より毎年各々のテーマで、毎回、樹木10～15種を巡り環境植生や活用・樹木の名前の由来などを3回の講座で学ぶもので、海上の森、東山植物園等で開催しています。また、「なぞとき樹木探偵」は、森に親しむ独自の環境学習プログラムで都市公園等で約10種の樹木をクイズ形式で解説をするもの、希少種エリアを含む季節・場所などに沿ったもの等があり、年間1,500名以上が参加しています。

#### 取組キーワード

森林

里山

公園

環境教育・普及啓発



樹木博士の樹木解説



樹木探偵の樹木解説

生物多様性の保全

生物多様性の持続可能な利用

その他（教育・啓発等）

## 親林会

### 森林整備による地域貢献プロジェクト

活動期間 2003年～

活動場所 やまじの森県有林（瀬戸市東山路町）

web <http://www.wa.commufa.jp/forester/>

健全な森林の維持造成は、喫緊の課題となっています。そこで、2003年に「海上の森の里山学びと交流の森づくりパイロット事業」に参加し、森林の現状を少しでも改善できるよう、海上の森だけでなく他の地域に活動範囲を広げられるように、親林会を設立して活動を開始しました。

県有林で間伐・除伐・下草刈りによる森林整備を進め、明るい森へ整備し、生物多様性の回復を図る活動を行いました。

「やまじの森」は、東海自然歩道との隣接エリアで、明るい森創出により、多様性に富んだ植生を生み、散策者・登山者のふれあいの場としての環境を整備してきました。

また、愛知県医療療育総合センターでは枯損木・危険木の整備、除伐により、森林の活力と生物多様性の回復を図っています。

引き続き、間伐・除伐・下草刈り等の実施による森林整備を進め、作業を通じて環境保全活動の人材育成に力を入れていきます。

#### 取組キーワード

森林

里山

ふれあい活動の場の整備

環境教育・普及啓発

地域貢献



高所作業の実施



常緑高木の伐採

生物多様性の保全

生物多様性の持続可能な利用

その他（教育・啓発等）

## 瀬竹会

### 愛知の竹藪を美竹林に！ 里山保全意識の向上と実践

活動期間 2013年～

活動場所 瀬戸市 等

web <http://www.ne.jp/asahi/nakamura/setikukai/>

近年、竹林が管理放棄され、里山の樹木も侵食されて枯死し、里山景観が破壊されています。これを阻止するため、竹藪を整備し管理竹林化することで里山の再生、景観改善で地域環境の保全に寄与しています。

主な活動として、孟宗竹や多種竹藪を整備し、管理竹林化をはかり里山の継続的な環境保全活動を、瀬戸市内、名古屋市内などで毎年少なくとも10回近く活動し、毎年延べ70人近くの参加者があります。また、整備竹林を利用してイベントでの竹細工作りや地域小学校での環境学習への参加を通して、世代の垣根を越えて森と緑の環境意識の啓発を図っています。今後も竹林整備活動を継続実施し、管理竹林化を図り、里山の環境保全活動を継続していきます。また、環境学習と整備された竹林を利用したイベントの開催を継続し、世代を超えて永続的な環境意識の醸成をはかり、竹林整備の重要性を認識してもらう活動を展開していきます。

#### 取組キーワード

里山

外来種対策

ふれあい活動の場の整備

環境教育・普及啓発



環境学習



竹林整備

## 瀬戸椿の会

### 瀬戸赤津・凧山つばきの森の環境整備

活動期間 2010年～

活動場所 瀬戸市凧山町

web <http://setotsubakinokai.web.fc2.com/index.html>

瀬戸市の花「つばき」で「瀬戸市を日本一のつばきの街にしよう」ということで、市内の各所を調査しました。その結果、放置された里山と休耕田のある凧山町の一部を確認し、地権者の協力のもと2010年から16,000㎡の土地を借用し、2012年「瀬戸赤津・凧山つばきの森」を開園しました。

四季を通じて自然を守り、かつ楽しむ環境づくりを行うため、孟宗竹の侵入を防ぎ、ナラ枯れ等で人も近づけなかった里山を整備しています。また、景観を大事にし、対岸の古刹雲興寺からの景観も考慮した森づくりも行っています。記念植樹による思い出づくりということで、植樹に合わせ陶板に思いの言葉の焼き付けもしています。その他、治水対策を実施し、池の流れづくりと水路もつくり、遊水池を4か所に分けて水草が育つ環境を整備し、小動物、昆虫、鳥などの生活圏を確保しました。今後も、自然の草木との共生ということで、従来からのあるヤマザクラ、ホオノキ等に交じってツバキ、ヤマアジサイ等を植樹して自然豊かな森づくりを行っていきます。

#### 取組キーワード

里山

野生生物の保護

ふれあい活動の場の整備

環境教育・普及啓発

地域貢献



凧山竹チップ処理



湧水池観察

## 佐布里の里山を美しくする会

### 森と緑の育成活動事業 里山ビューティー事業

活動期間 2018年～

活動場所 知多市佐布里

web -

当会は、昔の里山を取り戻し、自然とのふれあい体験・学習の場を提供することで、子どもたちが自然との共生の大切さを学ぶための活動を行っています。里道・広場を整備して子どもたちの里山での野外観察に役立てることや、水路を整備して水辺での体験・学習の機会を与えるために、『あいち森と緑づくり環境活動・学習推進事業』の助成金を受けています。

竹を伐採してできた広場では、タケノコほり体験を地区の小学3年生たちを対象に実施しました。また、散策路を整備するため竹・雑木の間伐、伐採も行いました。ほかにも、2012年ころからホタルの幼虫を放流し、観賞をしてきましたが、現地が狭いため、池を清掃し、ヘドロを処分したり、水路（せせらぎ）を延長して水辺の自然とふれあいやすくもしました。なお、池・水路（ビオトープ）の整備について、県により専門家の派遣を受け、指導を受けることもできました。保育園児らへの環境学習活動として、ホタルの幼虫の放流及びホタル観賞を行いました。今後は、里山散策路や広場の整備をし、当会の世代交代も念頭に活動を進めていきます。

#### 取組キーワード

里山

ふれあい活動の場の整備

環境教育・普及啓発



タケノコほり体験



散策路の整備（竹の伐採）

生物多様性の保全

生物多様性の持続可能な利用

その他（教育・啓発等）

## ちごりんの里山

### 小牧市の花 ミツバツツジの保護と里山保全、自然観察、森の遊び、ツツジの植樹会事業

活動期間 2015年～

活動場所 愛知県県有林（小牧市大字大山）

web -

小牧市の花であるミツバツツジの自生地の保護と整備、動植物の調査や観察会、森の遊びを中心に自然体験活動、ミツバツツジとモミジの植樹会を開催することを目的とし、2009年より県有林を借用して活動してきました。

市内におけるミツバツツジの自生は珍しかったですが、自生地を確認し、除伐や立ち枯れ松などの伐倒処理を行いました。

また、春にはミツバツツジの観察会、親子や小学生を対象に除伐体験などの環境活動を行いました。ほかにも、ネイチャーゲームなどを通じた環境活動なども行いました。

小学生や親子で活動を行うことで、森の大切さを知ってもらい、ミツバツツジの観察会を通じ、当会の保護活動を知ってもらえました。県内でミツバツツジが自生していることが珍しくなってしまう、今後とも保護活動などを通じて広く情報を発信していきます。

取組キーワード

里山

野生生物の保護

環境教育・普及啓発



除伐体験



植樹体験

生物多様性の保全

生物多様性の持続可能な利用

その他（教育・啓発等）

## 中日森友隊

### 段戸「中日森友隊の森」での持続可能な森作り・森林環境の学び

活動期間 1996年～

活動場所 設楽町 等

web <http://chunichi-shinyutai.cocolog-nifty.com/homepage/>

1997年以降、中日新聞社の後援により、段戸原生林に隣接する国有林で苗の植樹や夏の下草刈り、除伐や枝打ちなど、様々な育林活動を行ってきました。2010年からは独立し、メンバー同士で協力して、自主的に森作りを開始しました。スギやヒノキなどの人工林の育林活動だけでなく、ブナの原生林と常に対比しながら、木漏れ日が地表まで届き微生物の豊かな土壌になるよう除伐・間伐を行っています。また、一般の方、特に若い人に関心を持って活動してもらえるように呼びかけ、森林環境保全への思いを広げています。

森林管理事務所の指導を受けて「将来木施業方式」という伐採方式を採用し、将来の森の様子を想像しながら間伐を行っています。あわせて、都市周辺で里山の環境が残る中日青葉学園の環境整備も毎年実施しており、原生林や人工林、里山林の多様な森での活動を体感しています。企業や大学との協力も得られ、一般の参加者も増えた結果、広く啓発活動も行えるようになりました。

取組キーワード

森林

ふれあい活動の場の整備

環境教育・普及啓発



学生ボランティアと除伐作業



中日青葉学園にて園内の環境整備作業

## 特定非営利活動法人 てほへ

### 奥三河の森林生態系保全活動 蒼の森、のき山学校軒山整備事業～志多らの曲が生まれる森～

活動期間 2012年～

活動場所 のき山学校（北設楽郡東栄町）等

web <https://tehohe.com/>

奥三河地域は、約90%とほとんどが森林で、多様な動植物を育んできましたが、戦後の針葉樹の植林によって、森林の生態系は大きく変化しました。外国産の輸入木材の増加により、国産林の需要は大きく落ちこみ、森林伐採が低迷し、間伐などが行われずに森林が放置され、生態系が大きく影響を受けることになりました。当団体は、森林の間伐整備活動を通じて、都市住民へ森林の持つ機能の重要性を伝え、間伐や木材搬出に参加してもらうことで、奥三河の森林生態系の保全とともに、森林文化を守る活動をしています。

具体的な活動は、チェーンソーの取り扱い方や搬出技術習得のための機械操作などの勉強会、市民参加による間伐放置木材の搬出作業を行っています。また、専門家による森林講演会、チェーンソーアート体験、木工体験など森林ワークショップを毎年開催しています。さらに、YouTubeなどで地域情報を発信しているのき山放送局で、奥三河地域の森林生態系保全活動団体の活動記録を放映しています。今後とも、都市住民向けに森の現状と森林文化継承の重要性を知ってもらうために様々な活動を行っていきます。

#### 取組キーワード

森林

ふれあい活動の場の整備

環境教育・普及啓発

地域貢献



間伐材搬出作業



志多らの曲が生まれる森

## 特定非営利活動法人 土岐川・庄内川サポートセンター

### 源流の森から下流域まで流域一体の取組で体験を通して水と緑の大切さと山・川・里・海のつながりを知る。

活動期間 2006年～

活動場所 矢田川・庄内川流域（名古屋市）等

web <http://npots.jimdofree.com>

都市部に住む人たちに、土岐川・庄内川源流域の森の健全性とその維持をしている森の民の生活や源流、下流環境の見学・体験・交流を図ります。また、自然と触れ合うことの楽しさや、自然を守っていくことの大切さを知ってもらい、流域圏が一体となった地域づくりを図るため、当会ではイベントや広報を実施し、市民・企業・行政間などのパートナーシップの確立を図りながら、公益の増進に寄与しています。

上下流交流として源流水源の水生生物の調査、椎茸原木作り、間伐の森の見学を行いました。また、年に数回、地域や企業の催しに参加し、間伐材での箸作り、竹ぼら、ぶんぶんゴマ作り等、体験の機会を提供しました。その他、支援事業として、毎月第3日曜にみずとぴあ庄内で開催される朝市での親子体験教室（間伐材を使った箸作り等）、施設周辺と活動流域の草刈等整備活動、流域関連団体の協力を得て庄内川流域の外来植物、外来水生生物の調査を行いました。また、庄内川河川事務所から受託して、小学校、幼稚園、保育園の子ども達の河川体験を実施しました。

#### 取組キーワード

森林

河川

ふれあい活動の場の整備

環境教育・普及啓発

地域貢献



マイ箸作り



保育園児の河川体験

生物多様性の保全

生物多様性の持続可能な利用

その他（教育・啓発等）

## 特定非営利活動法人 富岡まちづくり協議会

### 森林整備から食育まで - 健康な森づくり -

活動期間 2016年～

活動場所 新城市富岡

web <http://tomioka-aichi.jp>

2014年度より五葉まつりイベントに出展し、椎茸の菌打ち体験に試験的に伐採した木材を活用したところ、イベント参加者に好評で瞬く間に原木がなくなり、伐採と食育の両方の観点から本活動を行うことを思いつきました。間伐期を逸した森林環境を良好なものにし、自然資源の活用策として椎茸の菌打ち体験をすることで、環境整備活動が食育にまで直結することを学習し、自然保護の民意形成に貢献するために、当会の活動を開始しました。

コナラ林の間伐活動の後は、作業道を散策の小道として残し、植物のほかに昆虫や小鳥などに関する学習の場として利用しています。また、毎年行う椎茸の菌打ち体験イベントには、椎茸菌打用原木を毎年約300本を細断して搬出し、富岡区外からも約半数の方々が参加し、栽培から食卓へのつながりについてを家庭内で実感し、「食育」の体験を促しています。今後も、森林整備からはじまる地産地消の活動を通じて、持続可能な活動の大切さについて次世代につなげていきます。

#### 取組キーワード

森林

生物多様性に配慮した製品

地産地消

環境教育・普及啓発



ホダ木を広場に集積し養生



細断ホダ木を運搬車で搬出

生物多様性の保全

生物多様性の持続可能な利用

その他（教育・啓発等）

## 豊明エコキッズ

### 豊明環境体験学習事業 ～触れて 知って 伝えよう！～

活動期間 2004年～

活動場所 二村山緑地（豊明市）等

web -

豊明市には住宅地だけでなく、河川や森林、里山もあります。しかし、子どもたちが身近な自然や生きものに触れあったり、学んだりする機会があまりないのが現状です。そこで、「エコを考え、心豊かに、キラキラと、繋がれ、ズッシリ体験」を合言葉に、親子で自然を大切にすることを育んでいく活動を行い、環境保全活動や自然体験、環境学習を通して、子どもたちが水や豊かな緑やそこに生息する生きものや環境の大切さを知り、その自然や環境保全の重要性を考え、広く伝えていく活動を行っています。

月に1回程度、身近な地域の川（皆瀬川）のクリーン活動を行っています。また、年に一度、川の生きものや水質調査を行い、レポートにまとめています。その他、減農薬野菜の栽培やエコクッキングで地産地消について考えたり、地域の緑地（二村山）で、自然観察会や落ち葉を集めてのビートルベットづくり（整備）を行い、自然体験や環境学習の活動に取り組んでいます。今後も引き続き、様々な団体と連携しながら、子どもたちが主体となって企画し、楽しめる活動を目指します。

#### 取組キーワード

里山

河川

湿地

環境教育・普及啓発

地域貢献



皆瀬川の水質パトロール



二村山で夜の虫探し

## 豊田市自然観察の森

### 湿地保全学習モデル校の取組によるラムサール条約湿地の保全及び生物多様性の学習機会の創出

活動期間 2018年～

活動場所 矢並湿地（豊田市）等

web -

市内の矢並湿地、上高湿地及び恩真寺湿地は、2012年にラムサール条約に登録されて以降、市民や小学生向けの観察会などを行ってきましたが、普段は一般に公開されていないため、認知度は低い状況でした。そこで、子どもたちが豊田市の貴重な自然環境を知ることで、主体的・対話的で深い学びを促し、湿地保全の輪を広げていくため、湿地での学習プログラムを行う学校を「湿地保全学習モデル校」として指定し、小学校の授業で豊田市のラムサール条約登録湿地を題材とした環境学習の機会を創出しています。

上鷹見小、矢並小、根川小及び則定小の4校を湿地保全学習モデル校に認定しており、各湿地で年間の学習スケジュールを組み、学校での事前学習と現地の湿地での学習、成果発表をセットにして進めています。各湿地の特徴や動植物の生態について、自然観察の森のレンジャーや保全団体等から学び、保全作業や自然マップの作成、一般市民向けの湿地ガイド、研究発表会などを実施し、湿地を通して、生物多様性保全の大切さを伝えています。

#### 取組キーワード

湿地

野生生物の保護

外来種対策

環境教育・普及啓発



矢並小学校こどもおもしろナビゲーター



則定小学校湿地ガイド学習

## とよた下山林業応援隊

### 森林の育成及び自然に親しむ活動

活動期間 2015年～

活動場所 豊田市大沼町 等

web <https://www.facebook.com/toyota.shimoyama>

当会は、自然に親しみつつ間伐等を行うことにより健全な森林を育成するとともに、ミツバチの飼育、キノコ栽培など自然の恵みの体験活動を行っています。これを通じて自然との調和の実現のため、とよた森林学校の受講生が中心となり間伐等を行うことにより、災害に強く多様な植物が繁茂する健全な森林を作ることとを目的とした会です。

自然観察、木材加工、林業、農業、山歩きなどそれぞれの興味分野を共有しながら活動を行っています。毎年0.5haほど間伐を実施しており、林床に日光が入り、多様な植物が生育するとともに、災害に強い山に変化していくのを実感しています。また、間伐材を利用して丸太椅子や花台、コースター等を作り、都市部でのフリーマーケットに参加して、間伐の必要性、自然の大切さなどを説明し、啓発活動を行っています。間伐前には植生調査を実施し、林道沿いに樹木名のプレートを設置しています。今後も間伐活動を基本とし、植生調査や自然観察の機会も増やしていきます。

#### 取組キーワード

森林

里山

環境教育・普及啓発



間伐後の森



森林での植生調査

生物多様性の保全

生物多様性の持続可能な利用

その他（教育・啓発等）

## 中志段味の自然を次世代に伝える会

### 才井戸流の自然保全と湧水自然公園の造成

活動期間 2011年～

活動場所 名古屋市

web -

才井戸流は、湧水に支えられた昆虫、希少植物、古くから生存してきたホタル、東部丘陵から往来する鳥やトンボなどが繁殖できる自然環境です。今後も保護していくため、地元住民を中心に生物多様性の維持と市民・学生との協働で行う活動を2011年から始めました。

活動の中で、ホタルは5種類の生存を確認し、毎年保護活動と観察を続けています。そして今年に入り諏訪坂上の道路造成に伴い、ヒメボタルの保護のため幼虫を捕獲・移動させました。これまでも水路を7本整備して、小池も3か所造成し、昆虫たちの生存条件を改善しました。現在は、才井戸流在来のオグラノフサモを繁殖させる作業を継続中で、清掃作業・竹などの整理・草刈りは1年を通して行っています。また、神社斜面の希少植物をコドラート調査で10種類以上確認し繁茂させる条件を模索中です。

今後、多くの市民に参加してもらえるように、永く広く活動していきます。

取組キーワード

湿地

野生生物の保護

ふれあい活動の場の整備

環境教育・普及啓発

協働



蟹原湿地の造成



守山高校と作業

生物多様性の保全

生物多様性の持続可能な利用

その他（教育・啓発等）

## 長篠開発委員会

### 豊かな森づくり事業

活動期間 2005年～

活動場所 大部川里山公園（新城市長篠）

web -

この地域では過疎化が進んでおり、里山を手入れする人が少なくなり、山も荒れて、自然環境が以前より悪化し、地域の活気も無くなりました。地元里山の自然との共生、自然の大切さを理解し、潤いのある町作りのために、当会では里山公園を整備し、自然学習会を開くことにより、地域住民に多数参加してもらい、この地域の自然の良さや里山の必要な役割を知ってもらうことで、地域の活性化を目指しています。

民間の里山の持ち主の協力を経て、間伐等を行い、大部川の周辺に里山公園を作り、遊歩道などを整備し、隣接している林道も定期的に草刈などをし、ウォーキングコースを整備しました。また、間伐材を利用した休憩小屋を作り、小川には間伐材で橋をつくり、公園内にベンチなども設置しました。年に2回ほど講師を呼んで、地域の子どもや保護者を対象にした自然観察会を開いたり、広報誌を発行しました。草刈機などを使用するための安全講習会を開催しました。今後も地域の多くの人々に参加してもらい、里山の魅力を伝え、自然環境保全と過疎化の歯止めに尽力したいです。

取組キーワード

里山

ふれあい活動の場の整備

環境教育・普及啓発



親子での植樹体験



小川でのマスつかみ体験

## なごや外来種を考える会

### 「外来種を捕る会」「外来種を食べる会」

活動期間 2018年～

活動場所 名古屋市

web <http://nagorai.org/>

2016年より外来種啓発のため「アメリカザリガニをゆでておいしく食べる会」を開催してきたところ、参加者から「捕るところから一緒に活動したい」と要望されました。そこで2018年より「捕る会」と「食べる会」を連続で開催しました。「おいしく食べてあげる」ことにより親子連れにもいやな気分させず外来種の駆除活動を完結することができています。

#### 取組キーワード

湿地

野生生物の保護

外来種対策

環境教育・普及啓発

その他：外来生物の駆除



外来種を捕る会

### 外来樹木に塩を吸収させて枯死させる「塩盛法」の実験

活動期間 2012年～

活動場所 名古屋市

外来樹木のうち、「ハリエンジュ」「トウネズミモチ」など再生力の強い樹木を駆除するには「食塩」が有効であることが分かりました。樹木を伐採した切り口に食塩を盛り、断面の師管から根に塩分を吸収させて枯死させる方法です。環境負荷もなく安価で簡単なので、駆除率の向上に向け、検証を続けています。

里山

公園

外来種対策

環境教育・普及啓発

地域貢献

トウネズミモチ駆除実験（ひこばえ・実生）

テープ巻法



塩綿巻き法



塩綿巻き法

## 特定非営利活動法人名古屋シティ・フォレスター倶楽部

### 人工林における 多様な生物が暮らせる森づくり

活動期間 2019年～

活動場所 ひざわの森県有林（豊田市御作町）

web <http://ncfc.jp/>

里山における手入れが不十分なため、生物多様性が失われ、集中豪雨等による災害面での課題が増えてきました。人工林内での雑木などの地表植生が繁茂可能な改善を図るとともに、今後の林内において落葉広葉樹との調和を図ることで、林内の植物相を豊かにしていくことが重要になっており、本会の取組を開始しました。

人工林における多様な生態系豊かな森づくりを目指して、人工林内の地形と地質、人工林、落葉広葉樹の状況を把握し、落葉広葉樹の状況を踏まえた森づくりの森林整備方針を立案しました。また、人工林内に落葉広葉樹の育成の可能性を図るための調査フィールドを整備し、落葉広葉樹を育成し、稚樹の移植を試みました。その他、調査フィールド周辺の落葉広葉樹幼木にタグを設置し、樹種と樹高、幹の太さを計測しました。今後ともモニタリング調査を継続的に行い、必要に応じて、森林整備方針の見直しも行いながら、生物多様性があふれる森林環境整備を目指します。

#### 取組キーワード

森林

里山

環境教育・普及啓発



集合写真



樹種樹高などの調査活動

生物多様性の保全

生物多様性の持続可能な利用

その他（教育・啓発等）

## なごやの生き物調査の会

### 夜の東山の森で虫たちを灯火採集（14年間）

活動期間 2006年～

活動場所 名古屋市

web -

なごや東山の森は東山公園と平和公園からなる約400haの森です。2006年から名古屋市内5か所（後に6か所）で毎年、緑地の昆虫の灯火採集による同時多点調査を始めました。2009年から調査地を東山の森に限定して市民参加調査を続けています。調査は東山の森の2地点で灯火採集された昆虫の種類や数からわかる環境の違いの経年変化を追います。昆虫の種の同定には専門的な知識等を要することから、毎年講師を招いて調査スタッフの専門性を高め、森に棲む昆虫を通して人も自然の一員であることを忘れず、自然を活かしたまちづくりを提案したいと考えています。

市民参加の事前学習会、灯火採集、標本づくり及び報告会からなる年4回の講座を行うとともに、調査スタッフによる標本づくりや市民同定会の開催、年ごとの標本展示をしています。希少種の記録や外来種の出現など、採集される種の変化が明らかになっています。2015年には灯火採集9年間のまとめを行い、残されている水辺環境の維持充実の必要性などの提案をしました。

取組キーワード

森林

里山

公園

環境教育・普及啓発



市民同定会



灯火採集ついて説明

生物多様性の保全

生物多様性の持続可能な利用

その他（教育・啓発等）

## 特定非営利活動法人 なごや東山の森づくりの会

### 人と自然の生命（いのち）輝く「なごや東山の森づくり」（17年）

活動期間 2006年～

活動場所 名古屋市

web <http://higashiyama-mori.sakura.ne.jp>

名古屋市の東山の森は、大半が樹林地で水辺や湿地も点在し、多様な動植物が生息しています。この森を次世代に受け継いでいこうと「なごや東山の森づくり基本構想」（2005年策定）に基づく協働組織「なごや東山の森づくりの会」が2006年に設立され、2015年4月に特定非営利活動法人となりました。

①里山を保全・再生する、生きものの多様性を高める、②自然とのふれあいを増やす、活動拠点をつくり情報を広く発信する、③生活に活かす・学習に活かすことで自然を活かしたまちづくりを提案し、持続可能な共生社会を目指します。具体的には雑木林や竹林、湿地の手入れを行うことにより多様な動植物が生息できるように整備しています。また、森の植生、水質等の観察と調査を行うとともに、森づくりのスキルアップと仲間づくりを目的とした講座や次世代を担う子どもたちが森と親しみ、森づくりを学ぶプログラム、自然との触れ合い体験を行っています。さらに、広報紙「東山の森だより」を発行したり、環境デーなごや等地域イベントなどで森づくり活動を紹介し、仲間を増やす交流活動を行い、年間4,000人以上が参加しています。

取組キーワード

森林

里山

湿地

公園

農地

野生生物の保護

外来種対策

環境教育・普及啓発

協働

その他



森で汗をかく・森で学ぶ・森で遊ぶ



水辺保全ウシカガエル除去 土壌動物調査

## 西沢川森づくりの会

### 西沢川里山保存プロジェクト

活動期間 2017年～

活動場所 東海自然歩道（新城市豊岡）等

web -

当会では、地元周辺で面積の80%以上を占めるスギ・ヒノキ人工林と山主及び地域と森林の関係が切れ始めている状況を憂慮し、子どもの頃に楽しんだ里山を再生し、地元住民、田舎を訪れる人々の心安らぐ生活空間の一部を保存すべく活動を開始しました。

未整備で疲弊した森林環境を整備し下層植生を育てることで、水系上流の保水能力や防災力の向上、野鳥の飛来による自然萌芽、人の安全の確保、里山に親しむ環境整備、間伐材の薪利用を進めています。また、間伐により採光を取り戻し、森林に入る人の安全確保のための道沿いの危険な木々を取り除いています。林道沿いの森林を間伐し、木漏れ日が入り、木々の隙間から青空を眺められる環境へ変化しました。道沿いの枯れ木、倒木の恐れのある大径木の伐採を続けています。雑木を伐採して光を大量にいれ、下層植生の今後の推移を期待できるようになり、小鳥の飛来による鳴き声も増加してきました。今後はさらに間伐を進め、ファミリーで自然を楽しめる場を提供します。

#### 取組キーワード

森林

里山

河川

環境教育・普及啓発

地域貢献



下げ荷技術研修会集合



ロープ、機材の設置作業

## 西三河野鳥の会

### 西尾いきものふれあいの里における探鳥会の実施

活動期間 2013年～

活動場所 西尾いきものふれあいの里（西尾市家武町）等

web -

当会は、野鳥に関する知識を深め愛護思想の普及に努めることを目的に1973年に設立されました。それ以来、探鳥会や例会の開催、機関紙の発行などの活動を行っています。

2013年4月からは、一般の方にも身近な自然に触れながら気軽に参加できる探鳥会に取り組んでいます。毎月第一土曜日に活動を行い、西尾いきものふれあいの里を起点に周辺の農耕地、須美川、小草池から万燈山へ続く散策路などの様々な環境を含むコースを歩きながら観察しています。一般の方には、探鳥会担当者などが望遠鏡を用いて、野鳥の姿や様子を実際に見てもらいながら興味、関心を持ってもらえるような説明を行うことを心掛けています。毎月の観察記録は、当会が毎月発行する機関紙に掲載され、西三河各地の公立図書館をはじめ県内の関係団体にも寄贈し、一般の方にも閲覧してもらえるよう公開しています。今後も、企業や学校、地域の団体などを対象に野鳥のことを知ってもらえる活動を継続していきます。

#### 取組キーワード

里山

環境教育・普及啓発

その他：地域の野鳥観察記録を蓄積し残す



探鳥風景



観察種、数の確認（鳥合わせ）

## 日本スパルティナ防除ネットワーク

### 特定外来生物 スパルティナ属の国内根絶を目指す活動

活動期間 2011年～

活動場所 梅田川（豊橋市）等

web <https://jpnet-prev-spartina.jimdofree.com/>

スパルティナ属の植物は、特定外来生物に指定されている大型のイネ科植物で、河口付近の干潟に侵入し、希少種を駆逐したり、干潟を草原化・陸地化することにより、干潟の生態系そのものを破壊してしまうおそれがあります。当会では、スパルティナ属の危険性の認知度を向上させ、分布拡大を防止し、国内から根絶するとともに、新たな侵入を防止することを目的に2011年から活動しています。

豊橋市内に約10,200㎡（2011年）あったスパルティナ属の分布面積は、地域市民、研究機関、行政、市民団体等と協働した駆除活動により、2017年には、ほぼゼロとなり、地元の高中生と最終防除を実施しました。また、2018年に碧南市でもスパルティナ属の侵入が確認されましたが、駆除活動を行うことにより、2019年には管理可能な状態になりました。

こうした成果を、各機関紙等への投稿や市民を対象とした勉強会により発信し、国内外のスパルティナ属の防除活動を実施する各主体のネットワークを構築しており、今後も継続的にモニタリング、普及啓発を行っていきます。

#### 取組キーワード

河川

外来種対策

環境教育・普及啓発

協働



干潟の自然観察会



最終防除イベント

## 一般社団法人 日本土壌肥料学会中部支部

### 土の不思議に迫る！ 「土の中の生き物探しを始めとした土壌観察と実験」

活動期間 2006年～

活動場所 豊田市自然観察の森（豊田市東山町）

web <http://jssspn.jp/edu/>

市民に土壌の重要性を啓発するための活動の一環として、2005年に親子を対象に土壌観察会を実施したことを契機に、学会中部支部が独自の取組として、「土壌観察会 ～土の不思議に迫る！～」を毎年継続して開催してきました。

主に小中学生を対象とした活動では、土の中の生きもの大切さや土の不思議さを体感してもらい、高校生以上を対象とした活動では、「土が地球上の多様な生命を維持する要であること」を理解してもらっています。その中で、土の大切さをテーマとし、農業・植物・環境とのつながりを伝える独自のプログラムを工夫しながら活動を継続してきました。森の中での土壌や植生の観察、実験用の土壌の採取、屋内での土にまつわるクイズや話、土の中の生きものの観察や名前調べ、土壌呼吸などの簡単な実験・工作を通じて、一日中、土と触れ合うことができます。今後とも活動を継続し、あわせて日本土壌肥料学会土壌教育委員会ウェブサイトを取組内容を掲載するなど、普及啓発活動に努めていきます。

#### 取組キーワード

森林

里山

農地

環境教育・普及啓発

地域貢献



生きもの探し



土の採取

## 一般社団法人 日本ボーイスカウト愛知連盟

### 体験で学ぶ森と緑づくり

活動期間 2015年～

活動場所 開催年によって変わります

web [www.scout.aichi.jp](http://www.scout.aichi.jp)

ボーイスカウトでは、日頃から森と緑づくりにつながる取組を意識して活動しています。また、社会貢献事業として、ボーイスカウト以外の子どもたちに対しても、身近な森での体験学習や環境学習の機会を提供しています。

2015年からは、小学校低学年の児童を募集し、都市公園等において「体験で学ぶ森と緑づくり」事業を実施しています。森で遊ぼう（木材を使った仮設の橋を渡ろう。）、森で探そう（森の中で自然のものを見つけよう（ネイチャービンゴ））、森で作ろう（木材を使ったキーホルダーを作ろう。）、森で働こう（のこぎりで丸太を切ってみよう。）という、4か所のコーナーを設置し、児童が保護者と一緒になって各コーナーを回りながら、環境学習を体験してもらいました。2015年の愛・地球博記念公園を皮切りに、岡崎市、春日井市、常滑市などの県内において毎年活動をしており、年間約850人が参加しています。今後も継続的に活動を行い、自然環境保護を担う若い人材を育成し、社会貢献を行っていきます。

#### 取組キーワード

森林

公園

環境教育・普及啓発



のこぎりで丸太（間伐材）を切る体験



木材を使った仮設の橋を渡る体験

## 日本野鳥の会 愛知県支部

### コアジサシの営巣地創出の活動

活動期間 2017年～

活動場所 知多市 等

web <http://wbsj-aichi.org/> 他

コアジサシは、日本に4月頃に繁殖に訪れる鳥類ですが、環境省のレッドリストで絶滅危惧Ⅱ類に位置付けられ、絶滅が危惧されています。近年、海岸や河川の営巣適地が開発行為により減少し、営巣場所には建設予定地の裸地が利用される傾向にありました。しかし、この裸地でさえ建設工事が終わればなくなってしまうので、2017年から企業の協力を得て、空き地にコアジサシのデコイ（おとりに使う鳥の模型）を置き、習性（集団性）を利用して代替地となる恒久的な営巣地を創出し、繁殖をサポートする活動を行っています。

コアジサシを呼び込むデコイは、大量生産できるようにデコイ作成用の金型を作成し、環境にやさしいバイオプラスチックで作成しています。また、デコイの色塗りイベントを開催し、参加者へコアジサシを通じた自然保護に関心を持ってもらいました。

デコイは、県内3か所で約300体を設置しました。2019年は、コロニー形成には至りませんでした。1か所でペアの飛来が確認されました。引き続き、コアジサシの繁殖サポートと啓発活動を行っていきます。

#### 取組キーワード

海岸

野生生物の保護

生物多様性に配慮した製品

環境教育・普及啓発

その他：営巣地創出



デコイの色塗り会の様子



色塗り後のデコイ

生物多様性の保全

生物多様性の持続可能な利用

その他（教育・啓発等）

# 公益財団法人 日本野鳥の会 豊田グループ

## サシバのすめる森づくり

活動期間 2004年～ 活動場所 豊田市自然観察の森（豊田市東山町）等 web <http://toyota-shizen.org/information/ranger.html>

豊田市自然観察の森の里山保全計画では「サシバのすめる森づくり」をテーマに、2004年まで繁殖していたと思われるつがいの復活のため、餌資源の力エル類を増やすために休耕田に水を張る事業を開始しました。自然観察の森に関わる様々なセクターの方が、日本野鳥の会と協力し、休耕田に水を張る事業と並行して、サシバの餌資源調査やサシバをテーマとした啓発活動を開催しました。今後は農家とも連携し、直接支払い制度を活用した農地の保全を行いながら、サシバの生息地保全を展開します。

## ラムサール条約湿地登録から湿地のワイズユース（賢明な利用）

活動期間 2003年～ 活動場所 豊田市自然観察の森（豊田市東山町）等

世界的にも重要な湿地環境である東海丘陵湧水湿地群の保全・活用に取り組んできました。2018年には日本湿地学会でのシンポジウムを開催し、2019年には湧水湿地研究会の事務局として東海地方の湧水湿地の全体像をとりまとめた調査報告書「東海地方の湧水湿地」を発行しました。今後は報告書の普及版を発行し、研究者向けのデータベースを作成します。

取組キーワード

里山

湿地

農地

野生生物の保護

環境教育・普及啓発

協働



市貝町サシバサミット

里山

湿地

野生生物の保護

環境教育・普及啓発

協働



東海地方の湧水湿地

生物多様性の保全

生物多様性の持続可能な利用

その他（教育・啓発等）

# 日本ワシタカ研究センター

## 希少種を含む傷病猛禽類の保護活動

活動期間 1982年～ 活動場所 日本ワシタカ研究センター（尾張旭市旭ヶ丘町） web <http://www.jfcenter.org>

当センターでは、1982年の団体設立当初からワシ、タカなどの猛禽類を対象とした様々な保護活動を実施しており、その一つとして、愛知県などの行政機関からの要請に応じて、傷病猛禽類の収容、治療、保護飼養、野生復帰に向けたリハビリテーション、完治した個体の放鳥を行っています。

傷病により保護される猛禽類には、イヌワシ、クマタカ、ハヤブサなどの「種の保存法」対象種や環境省のレッドリストに掲載されているサシバやオオタカなどの絶滅危惧種が含まれています。救護した個体を治療して野生復帰させることができれば、生息数の維持に貢献でき、野生復帰した個体がある後子孫を残せば、次世代の種の保全にもつながります。

搬入された傷病鳥は、診断、手術等の治療を行い、リハビリテーション後に、完治した鳥を放鳥します。放鳥後はGPS発信機による行動追跡も一部の個体で実施しています。収容後に死亡した個体は、教育や基礎研究に利用しています。活動内容は、専門誌や国内外で開催される猛禽類保護に関する会議、学会、シンポジウムや市民講座等で発表しています。

取組キーワード

野生生物の保護

環境教育・普及啓発

協働



翼の骨折治療中のハヤブサ



外傷が完治したオオタカの放鳥

## 二村山豊かな里山づくりの会（旧称：二村山環境保全推進協議会）

### 二村山緑地里山保全整備 ～生物でにぎわう里山をめざして～

活動期間 2005年～

活動場所 二村山緑地（豊明市沓掛町）

web <http://kankyo-toyoake.sakura.ne.jp/hutamurayama-top.html>

二村山の雑木林は竹の侵入や常緑樹の繁茂により荒廃していました。当会は、市民と豊明市が協働して二村山緑地の自然を保全・育成することを目指して2005年1月に発足し、同年4月に市と協定を締結して、二村山を多様な生きものが生息できる自然環境に改善するための保全整備活動を始めました。

里山保全活動では、雑木林の保全整備（竹の伐採や常緑樹の間引き、外来種駆除、下草刈りなど）や小湿地の維持保全活動を行っています。また、春の自然観察会や、フジバカマの栽培とアサギマダラ観察会を実施したり、豊明市が開催するグリーンフェスタに豊明二村山自然観察会と共同で出展し、ドングリ工作などを楽しんでいただきながら里山保全整備の大切さをPRしています。ほかにも、豊明エコキッズが二村山で開催する行事への協力、樹名板や巣箱の設置・保守活動を行い、地元小学校の「地域に学び・語り継ぐキャリア教育」推進事業の題材にもなりました。竹の伐採地にヒヨドリバナが復活するなど少しずつ成果もあがっています。今後とも「生物多様性にあふれた里山」を目標に、専門家の助言を生かしつつ、計画的で質の高い保全活動を目指していきます。

#### 取組キーワード

里山

湿地

公園

野生生物の保護

環境教育・普及啓発

協働



観察会でのカブトムシ幼虫探し



常緑樹の間引き作業

## ふるさとの自然を愛するスズサイコの会

### 新郷瀬川の河川改修工事に伴う半自然草地の保全活動

活動期間 2015年～

活動場所 新郷瀬川（犬山市）

web -

新郷瀬川の堤防には、国の準絶滅危惧種であるスズサイコ等が生育する良好な半自然草地が見られます。当会では1995年より新郷瀬川の植物や鳥類の観察・記録を続けています。また2015年からは、新郷瀬川の河川改修工事に合わせて、当会をはじめとする地域活動団体・関係行政・学識経験者・専門業者と連携し、持続的に堤防草地の維持・保全ができる体制づくりを構築しています。

河川改修工事範囲に生育するスズサイコ等1,190株を、工事の影響を受けない堤防草地に移植しました。移植後はモニタリングを行い2020年3月時点では、約4割の生存が確認できています。また移植株の枯損に備えて、現地で種子を採取し、ポット苗の育成を行っています。育てたポット苗の一部は、工事によって作られた堤防法面に植栽を行い、約6割の苗の生存が確認されています。河川改修工事により豊かな草地が衰退・消失するのではなく、工事の実施と共に草地環境の維持・保全を実施し、河川改修工事が終わった後も昔からあるふるさとの自然、風景、宝物を子や孫に残せるよう継続して活動していきます。

#### 取組キーワード

里山

河川

野生生物の保護

地域貢献

協働



スズサイコ等の移植を行った移植会



種子から育てたポット苗の植栽会

生物多様性の保全

生物多様性の持続可能な利用

その他（教育・啓発等）

## 特定非営利活動法人 みよしの自然環境を守る会

### 里地・里山の生態系保全と自然環境意識を高める市民体験活動

活動期間 2014年～

活動場所 みよし市黒笹町 等

web <https://npo-miyoshino-shizen.jimdofree.com/>

みよし市では都市化が進み、多くの緑地が失われてきました。黒笹町付近の自然環境を守るべく、市の掲げる「環境共生都市みよし」にふさわしく、生物多様性に富んだ町づくりに貢献するために会を結成しました。当初の会員は30名でしたが、現在では90名近くの会員がいます。

里山の間伐や湿地の整備活動を行い、生態系の保全を図りました。耕作放棄水田を活用して田んぼビオトープを造成するとともに、冬水田んぼで減農薬等の稲作を行い、好ましい水辺環境の創出に努めています。また、親子や大学生などにも参加してもらい、里山保全活動や自然観察会、稲作体験活動を行ってきました。ほかにも、小学校の学習支援も兼ね、区域一帯の生きもの調査を継続して行っています。結果として希少種の保護にもつながっており、ミカワツツジが活生し、ヘイケボタルも自然発生しました。市民の環境意識も高まっており、今後も活動を継続し、あわせてみよしの生きものを写真展示したイベント開催なども開催していきます。

#### 取組キーワード

里山

湿地

農地

野生生物の保護

環境教育・普及啓発



稲刈り体験活動



水中生物観察会

生物多様性の保全

生物多様性の持続可能な利用

その他（教育・啓発等）

## 守山リス研究会

### 名古屋市に生息する野生のニホンリス・ムササビ等の調査保全活動

活動期間 1990年～

活動場所 名古屋市

web <http://risuken.sakura.ne.jp/>

1990年から名古屋市東谷山を中心に生息する野生のリス等の哺乳動物とその生息地の調査・保全を目指しています。野生動物が持続的に自活できるようにすること、そのための環境教育として「体験学習」、「発見学習」、「課題解決学習」の座学・フィールド活動を公開実施するとともに、同じ東谷山で活動するNPO法人えこども・尾張野鳥の会とともに地域の自然、歴史、文化を含む東谷山周辺の保全を住民、学校、農家、関係団体と協同で実施しています。

具体的な取組として、定期調査は、毎週一回湧水計測、給餌残数計測、センサーカメラによる定点調査、林床の日照・温湿度・風速計測、指定樹木の長期胸高直径計測を行い、月一回リス捕獲調査をして個体記録・発信機装着などを行っています。巣や行動をテレメ調査するとともにフィールドの変化を記録したり、エサとなる樹木の調査、植樹を森林公園ゴルフ場他団体とも協力し実施しています。そして、30年間にわたり年間20匹以上の安定的な繁殖を継続してきた成果を2010年のCOP10のフォーラム・ブース展示等や2012年国際リス学会において発表しました。

#### 取組キーワード

森林

里山

野生生物の保護

外来種対策

環境教育・普及啓発



デンドロ計測



リス捕獲計測・保定器

## 家下川リバーキーパーズ

### 川遊びイベントの開催、家下川流域での生物の生息環境の保全

活動期間 2009年～

活動場所 家下川（豊田市上郷）等

web -

家下川は流長5キロメートル程度の小河川ですが、豊かな水辺環境を有し、トウカイコガタスジシマドジョウ等の希少生物の生息地となっています。しかし、地域の関心は高くなく、汚れた川という印象を持つ住民が多い状況でした。こうした中、流域の水路での水田魚道の設置活動を契機に、川遊びが好きな地区在住者が中心となり「実体験から地域の川の面白さを伝える」「様々な立場の人と問題を共有しながら生きものの生息環境を保全する」の2点を活動のテーマとして、2009年に本会を立ち上げました。

市民団体キッズプランナーとの共催により、親子を対象とした川遊びイベントとして、2009年から家下川たんけん隊活動、矢作川たんけん隊活動を実施しています。また、魚の棲む水路を作ろう計画を実施し、ビオトープづくりや生きもの調査、ヨシ刈り等の河川環境整備作業を行っています。今後も多くの地域住民や関係団体、矢作川流域の人々と協働しながら取組を行い、地域の河川の魅力を発信していきます。

#### 取組キーワード

河川

野生生物の保護

外来種対策

ふれあい活動の場の整備

環境教育・普及啓発



水路での生息環境造成活動



整備場所でのかいぼり調査

## 矢田・庄内川をきれいにする会

### ウナギ登リアシスト ～日本初、既設魚道に適應したウナギ専用魚道の設置の試み～

活動期間 2013年～

活動場所 名古屋市

web <http://www.yadashounai.org/>

ニホンウナギは、日本人にとって貴重な食料資源ですが、漁獲量は近年減少しており、環境省は2013年に、国際自然保護連合は2014年に絶滅危惧IB類に指定しました。そして、水産資源の保護、生物多様性保全の観点から生息地の連続性のある再生が求められているため、河川に設置されている魚道にニホンウナギの遡上を手助けする器具（イールラダー：ウナギ専用魚道）を取り付ける日本で初めての試みを、庄内川、矢田川で実施しています。

イールラダーは、魚道の形状に柔軟に適應するブラシ型のもの、海苔の養殖に用いる「海苔網」を活用したもの、水草の「ヤナギモ」を模したロープを取り付けたものの3種類を各魚道（階段式魚道や棚田式魚道など）の構造に合わせて設置し、効果の検証を行いました。また、イールラダーを設置する際、一般市民参加型イベント「ウナギを呼び戻そう」を開催するとともに、魚道管理者、漁業関係者と現地視察「庄内川水系・魚道視察団2020」を行い、本取組についての情報共有や意見交換を行いました。なお、イールラダーの効果を検証する調査では、実際にニホンウナギの遡上を確認することができました。

#### 取組キーワード

河川

野生生物の保護

生物多様性に配慮した製品

地域貢献

協働



ウナギのぼりアシスト設置活動



遡上したウナギやエビなどの生物

## 矢作川水族館

### 川イベント開催・まちなかでの移動水族館

活動期間 2007年～

活動場所 矢作川とその支流（豊田市）等

web <https://yahagigawa-suizokukan.jimdofree.com/>

当館は、2007年の設立以来、川遊びのイベント等に水槽を展示したり、軽トラックを使用した移動水族館を出展してきました。2015年に豊田市中心部のまちなか広場に移動水族館を出展したことを契機に、川に関心の無いファミリーに「矢作川の実力と魅力」を知ってもらう必要性を認識し、矢作川感謝祭、まちなかおいでん、ラグビーワールドカップ関連イベントなど、様々なイベントに移動水族館を出展するようになりました。

この活動を通して、川に関心の無いファミリー向けに川の魅力や矢作川に多くの生きものがいることを伝えてきました。また、川遊びや魚捕りの講座・イベント、川を楽しく学ぶワークショップにより、川にいる多くの生きもの（川の実力）や、川の楽しさ（川の魅力）を知ってもらい、河川環境を守る意識を高めることを啓発してきました。

今後も活動を通じて、川に関心をもってもらうことや川の楽しさを伝えるだけでなく、山、川、海がつながっている流域意識を高めることで、自然環境の重要性を多くの人々に伝えていきます。

#### 取組キーワード

河川

ふれあい活動の整備

環境教育・普及啓発

協働



支流で開催した川遊び大会



まちなか広場での移動水族館

## 山法師の会

### 生物多様性と森の生産物のリサイクルに配慮した地域福祉型花いっぱい里山整備

活動期間 2000年～

活動場所 大興寺社叢林（知多市大興寺）

web -

大興寺社叢林は、長年整備されず放置され、竹の繁殖等で荒れ放題となっていました。そこで、自分達で里山を守ろうと有志で、2000年にボランティアグループ「山法師の会」を設立しました。会の名称はその時に植樹した（ヤマボウシ）にちなみます。

竹の放置林などを整備し、植栽木を育成して観賞性の高い里山や、地域住民のいこいの森にするための活動を行っています。また、生物多様性の観点から、在来種の天然実生の育成を増やしています。散策道や休憩施設を整備したり、在来種ヤブツバキの天然実生を数百本ほど育て、低木層には天然実生で多数の鑑賞価値の高い植物を育成しました。住民が森の中を回遊できるようになり、鑑賞会を行うなど地域住民の交流の場を提供しています。今後も竹の間伐材を利用した竹細工や竹灯籠づくりを行うとともに、地元小学校の児童を対象に、「総合的な学習の時間」で竹灯籠づくりを指導していきます。

#### 取組キーワード

里山

環境教育・普及啓発

地域貢献



過密林の間伐作業



竹間伐材で灯籠作り

生物多様性の保全

生物多様性の持続可能な利用

その他（教育・啓発等）

## 渡し場かもめ会

### ふるさとの美しい海をふたたび

活動期間 2012年～

活動場所 高浜市芳川町

web -

江戸時代から対岸の東浦町の藤江とを結ぶ渡し舟がありましたが、1956年の衣浦大橋の完成とともに廃止されました。そこで、地元の有志により渡し場の文化の継承と付近の環境保全並びに福祉を目的として渡し場かもめ会が設立されました。

主な活動として、海の環境保全と浄化、地域文化の継承、福祉への貢献を掲げています。環境整備事業では、毎月第一日曜日に芳川町地内の海岸線の約1.5kmの清掃を行っています。また、環境啓発活動では、小学校の児童を対象に、海の浄化をテーマとした標語を募集し優秀作品を表彰したり、市内の小学校児童を対象に「高浜の干潟の生きもの調査」、「衣浦の海の環境教室」を実施しています。地域文化の継承と福祉活動では、かつての渡し場を地域の文化遺産として後世に伝えるため、往時を偲び「花嫁行列・嫁入り舟」をまつりで再現する活動も行っています。環境活動を通じて、子どもたちの環境への問題意識が高まり、地域住民の海に対する愛着を深めることができました。今後も継続して活動を行います。

#### 取組キーワード

海岸

環境教育・普及啓発

地域貢献

その他：地域の歴史文化（藤江渡し跡）の継承



海岸清掃



高浜の干潟の生きもの調査

生物多様性の保全

生物多様性の持続可能な利用

その他（教育・啓発等）

## Longhill Net

### 黒メダカを守ろう

活動期間 2013年～

活動場所 ビオトープながおか（稲沢市祖父江町）

web <http://longhillnet.web.fc2.com/kuromedaka.pdf>

「ビオトープながおか」で、「住民目線」で活動する市民活動団体 Longhill Net を2009年に立ち上げました。木曾川用水を入れた池で、黒メダカを見つけ、ビオトープの管理をしながら、食物連鎖に影響を及ぼしている人優先社会から生きもの優先社会への枠組みを変えていく重要性についての発信を考えています。また、環境学習をビオトープ観察から始めて、メダカ里親事業へと広がり、自然環境を守る意識が地域の全ての年代層に芽生え、生物多様性保全に取り組む活動の礎になればと考えています。

環境学習の指導者を育成するため会員が、ビオトープ管理士やこども環境管理士の資格を取得しています。毎年8月の第1土曜日に「ビオトープながおか生きものしらべ」を開催しています。2018年に愛知県環境局自然環境課の生物多様性マッチングシートに応募し、企業から注水管理やイベントのボランティア支援を2019年から受けています。今後も企業やボランティア団体とも連携しながら活動を続けていきます。

#### 取組キーワード

外来種対策

ふれあい活動の場の整備

環境教育・普及啓発

地域貢献

協働



参加者・関係者一同の集合写真



上池での生きもの調査場面